

前田遺跡群

MAEDA

前田遺跡VI

長野県佐久市小田井前田遺跡VI発掘調査報告書

前田遺跡群 前田遺跡VI

佐久市教育委員会

2020.3
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第264集

前田遺跡群

MAEDA

前田遺跡VI

長野県佐久市小田井前田遺跡VI発掘調査報告書

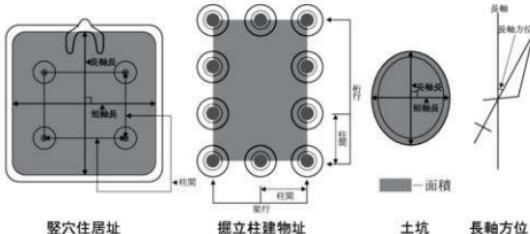
2020.3
佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する前田遺跡群前田遺跡第6次調査の発掘調査報告書である。
- 2 調査は株式会社オートメカ・エフケイが行う工場新築工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 前田遺跡群前田遺跡VI(OIM VI)
佐久市小田井字前田329-1、332、333-1、343-5
- 4 調査期間及び面積 発掘調査：平成30年11月15日～12月11日
整　理：平成30年12月11日～令和2年3月31日
調査面積：1,063.67 m²
- 5 本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図(1:50,000)である。
- 6 遺構測量はTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。図面トレースは「遺構君」で行い、Adobe Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影しAdobe Photoshopで補正等を行った。編集はAdobe InDesignで行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

- 1 掘図の縮尺は遺構1/80、遺物1/4(鉄器・鉄製品は1/2)を基本とするが、これ以外の物は図中に縮尺を記した。
- 2 海拔標高は、水系標高をスケールに「標高」として記してある。また、土色の色調は1999年版「新版標準土色帳」に基づいた。



- 3 調査区グリッドは公共座標の区割りに従い、間隔は4m×4mで設定した。
- 4 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 5 掘図中の網掛けは以下の表現である。



目　　次

第Ⅰ章 調査の経緯	1
第1節 経過と立地	1
第2節 調査体制	2
第3節 検出遺構・遺物の概要	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	2
第1節 住居址	2
第2節 据立柱建物址	12
第3節 土坑	13
第4節 ピット	13
第5節 黒色帶	14
第6節 遺構外・試掘出土遺物	15
第Ⅲ章まとめ	21
表	
図版	
抄録	
奥付	

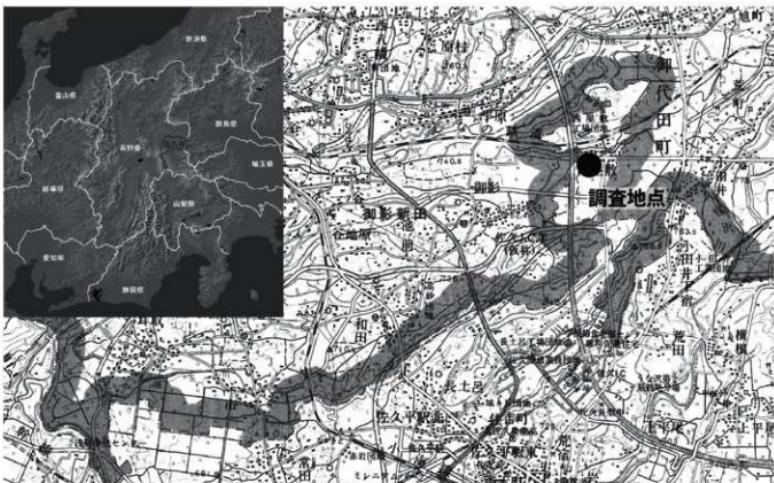


調査風景

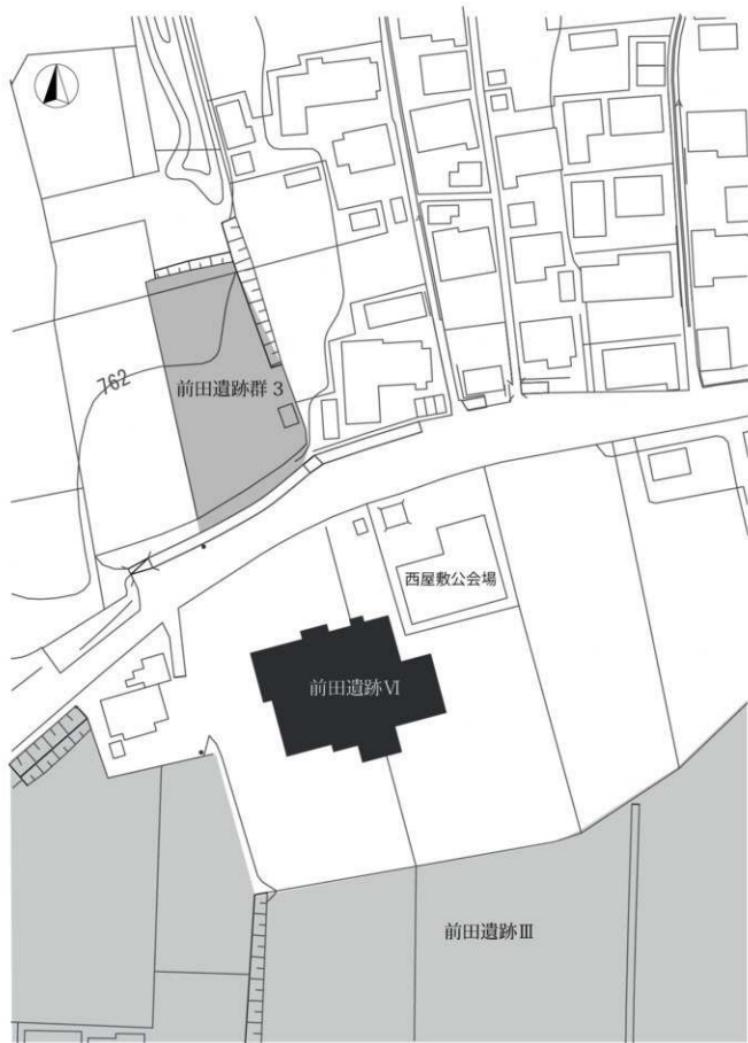
第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 経過と立地

前田遺跡VIは佐久市小田井字前田地籍に所在する。遺跡は南北を田切に挟まれた、小諸市や御代田町との行政境が錯綜する標高760m前後の広大な台地の北縁近くに立地する。遺跡内では過去に、佐久市教育委員会による5次に及ぶ発掘調査と、中部横断自動車道建設に伴う長野県埋蔵文化財セ



第1回 前田遺跡VIの位置 (1:50,000)



第2図 調査範囲 (1:1,000)



第3図 前田遺跡VI全体図 (1:250)



前田遺跡VI全景(南から)

ンターの発掘調査、圃場整備に伴う調査が小諸市教育委員会、御代田町教育委員会で行われている。何れの調査に於いても数多くの遺構・遺物が検出されている。時期的に主体をなすのは古墳時代後期から平安時代、中世であるが、特に奈良時代の遺構・遺物は充実しており、佐久地域の概期の土器編年は、堤隆により当遺跡出土資料（御代田町分）により構築されたものである。また、長野県埋蔵文化財センターによる宮ノ反A遺跡の調査では、佐久地方唯一の古代官衙跡が発見された。小諸市の宮ノ反A遺跡群竹花遺跡から出土した漆紙文書や佐久市前田遺跡出土の唐三彩陶枕片、和銅開跡、円面鏡、帶金具や野火附遺跡の埋葬馬の存在などから一帯を古代の「駿」とその関連施設として捉える見解が近年の大勢となってきた。

今回、遺跡内で株式会社オーネメカ・エフケイにより工場新築工事が計画されたことから、遺跡の保護を目的とし、状況を把握するための試掘調査を平成30年10月22・23日に実施した。その結果、住居址等の遺構が検出されたため、遺構の破壊が予測される建物箇所について記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。なお、その他の部分については埋土保存とした。

第2節 調査体制

平成30・31(2019)年度

調査受託者	佐久市教育委員会	教 育 長	樋澤晴樹
事務局	社会教育部	部 長	青木 源
	文化振興課	課 長	小林義夫(2019年3月まで)
			東城 洋(2019年4月から)
文化財調査係		企 画 幹	武者新一(2019年3月まで)
			吉田 晃(2019年4月から)
		係 長	塙川宏幸(2019年3月まで)
			山本秀典(2019年4月から)
		係	小林眞寿 富沢一明 上原 学 久保浩一郎
			岩下 琴(2018年6月まで)
			荻原義治(2018年7月から2019年3月まで)
			羽毛田卓也(2019年4月から)
		臨 時 職 員	森泉かよ子(2019年3月まで)
調査担当者		小林眞寿	
調査員		赤羽根篤 浅沼勝男 甘利隆雄 岩松茂年 大矢志輔	
		木内修一 小林喜久子 小林節子 小林敏雄 堀 益子	
		清水律子 田中ひさ子 中澤 登 羽毛田利明 花岡美津子	
		細谷秀子 堀籠滋子 宮川真紀子 山口ひとみ 柳澤孝子	
		柳沢千賀子 山田叔正 油井満芳 横尾敏雄 依田好行	

第3節 検出遺構・遺物の概要

遺構 積穴住居址 16軒 挖立柱建物址 10棟 土坑 3基 溝址 1条 ピット 236基

遺物 土師器 須恵器 石器・石製品 鉄器 熊骨

第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 住居址

● H 1号住居址(第4図)

調査区西南端で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。他遺構との重複関係は有さない。主軸をN-16°-Wにとり、長軸長3.64m、壁残高0.36mの規模であった。検出範囲にはカマドや柱穴は存在しなかった。北東隅を除く壁下には周溝が巡っている。北東隅の掘方からは土坑が1基検出された。

遺物は須恵器が2点出土した。1は环蓋、2は甕の体部である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅱ期に該当し、8世紀第Ⅱ四半期の実年代が想定される。

● H 2号住居址(第5図)

調査区西端中央付近で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。他遺構との重複関係は有さない。主軸をN-25.3°-Wにとり、長軸長5.45m、壁残高0.47mの規模である。検出範囲にはカマドは存在しなかった。東壁下の中央付近にだけ周溝が存在した。ピットは床面及び掘方から5基検出されが、主柱は判然としない。

遺物は土師器が出土している。器種的には、坏(1・2)、鉢(3)、甕(4～6)の器種が存在する。坏

は2点共に北武藏型であり、内面ナデ、外面にはヘラケズリ調整が施される。鉢は内面がヘラミガキ・黒色処理、外面にはヘラケズリ調整が施されている。甕は4・6が武藏甕、5は外面ヘラケズリ調整の長胴甕である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に該当し、8世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

● H 3号住居址(第6図)

調査区西北端部で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。H4号住居址を切っている。検出範囲にはカマドやピット、周溝は存在しなかった。壁残高0.4m以外の規模は不明である。

遺物は須恵器が出土している。器種的には坏(1～3)、甕(4)、壺(5)が認められる。坏のロクロからの切り離し方法は、3点全てが回転糸切である。3は外面に火燐が認められる。また、2は「杓状坏」である。甕は肩部分の破片であり、内面に当具痕、外面には平行目印が残されている。5の壺は小型の長頸壺で、ロクロから回転糸切で切り離した後、回転ヘラケズリ調整を行い、高台を付している。口縁部が部分的に欠損するものの、ほぼ完形である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代V期に該当し、9世紀前半の実年代が想定される。

● H 4号住居址(第7図)

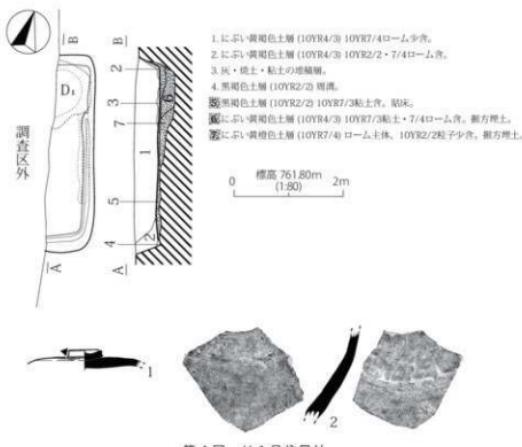
調査区西北端部で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。H3号住居址・P11・P43に切られ、主軸をN-27°-Wにとり、長軸長5.35m、壁残高0.51mの規模であった。検出範囲にはカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡り、主柱穴に連結するとと思われる間仕切溝が認められた。ピットは主柱穴と思われるP1が1基検出され、φ14cmの柱痕が確認された。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には、坏(1～4)、壺(5)の器種が認められる。坏1は所謂「北武藏型坏」である。4は内面見込みに放射状の暗文が描出されている。壺は底部のみの破片である。須恵器は2点共に坏の小破片であり、受部を有する形態である。

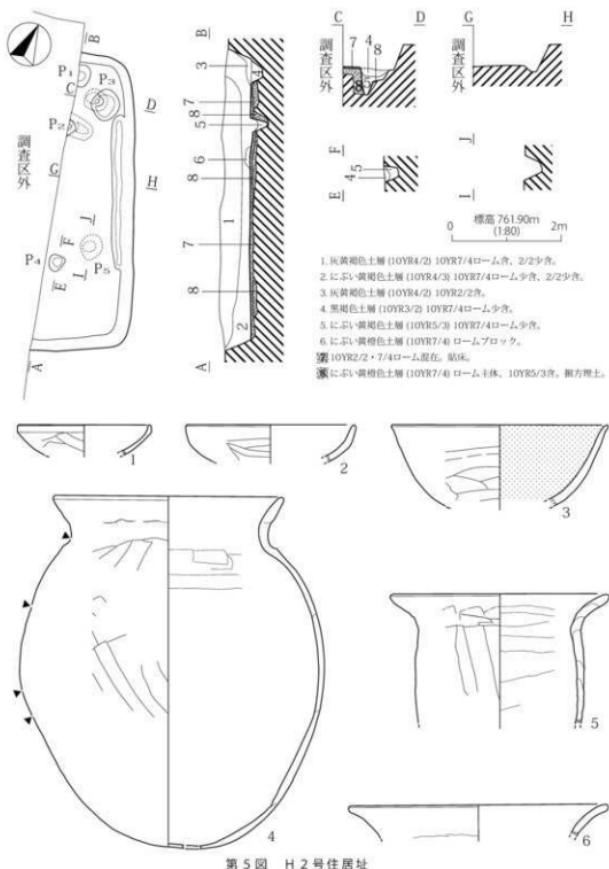
以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の古墳時代IV期に該当し、7世紀代の実年代が想定される。

● H 5号住居址(第8図)

調査区西側でH2号住居址の東隣りに検出された。東側にはM1号溝址が走っている。P3・P8・P13に切られる。主軸をN-10°-Wにとり、長軸長4.43m、短軸長3.71m、壁残高0.56mの規模である。主軸は短軸である。カマドは北壁の中央東寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマドと南壁下中央部分を除く壁下には周溝が巡る。主柱は2本であり、P1・P2が該当する。P1からはφ11cmの柱痕が確認された。南壁下中央部分の、壁下に周溝が認められない部分は出入口であり、P4・P5が階段ないし梯子の桁穴である。西壁下の掘方から、



第4図 H 1号住居址



第5図 H2号住居址

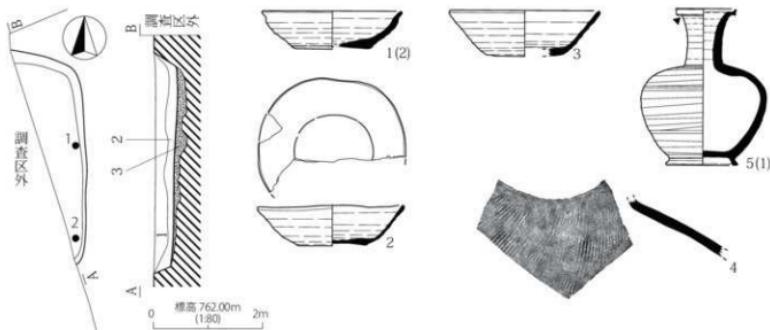
細長い長方形の土坑が検出されたが性格は不明である。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品、鐵器が出土した。土師器には高环(1)、甕(2~4)、壺(5~6)の器種が認められる。高环は脚部のみの破片である。甕は3~4が長胴甕、2は武藏甕化の傾向が看取されるヘラケズリ調整の丸胴の甕である。壺5は球胴のヘラミガキ調整のもの、6はあまり顕著な球胴ではないヘラケズリ調整のものである。須恵器には环(7)、有台环(8)、高环(9)の器種が認められる。环はヘラ切、ヘラケズリ調整、有台环は高台が底部と体部の変換点に貼付される。高环は脚に横位1条の沈線が巡るほかは無文である。石器・石製品は2点共に輕石製(10~11)である。鐵器は片刃箭の鏃(12)である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に該当し、8世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

● H 6 号住居址(第9図)

調査区北端中央部分からやや西寄りで検出された。H7号住居址を切り、M1号溝址に切られる。主軸をN-Wにとり、長軸長4.36m、短軸長4.28m、壁残高0.25m、面積14.6m²の規模であった。P1~P4の4



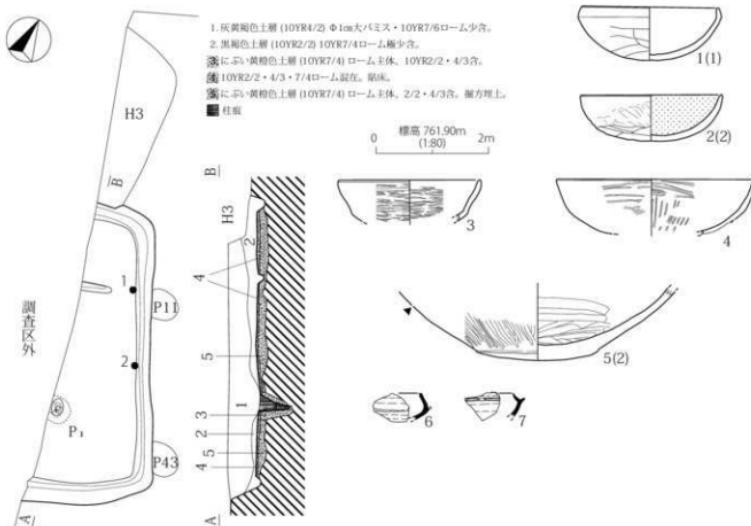
1. にふい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。

2. 10YR7/4ローム・灰・燒土の増殖。3/2含。

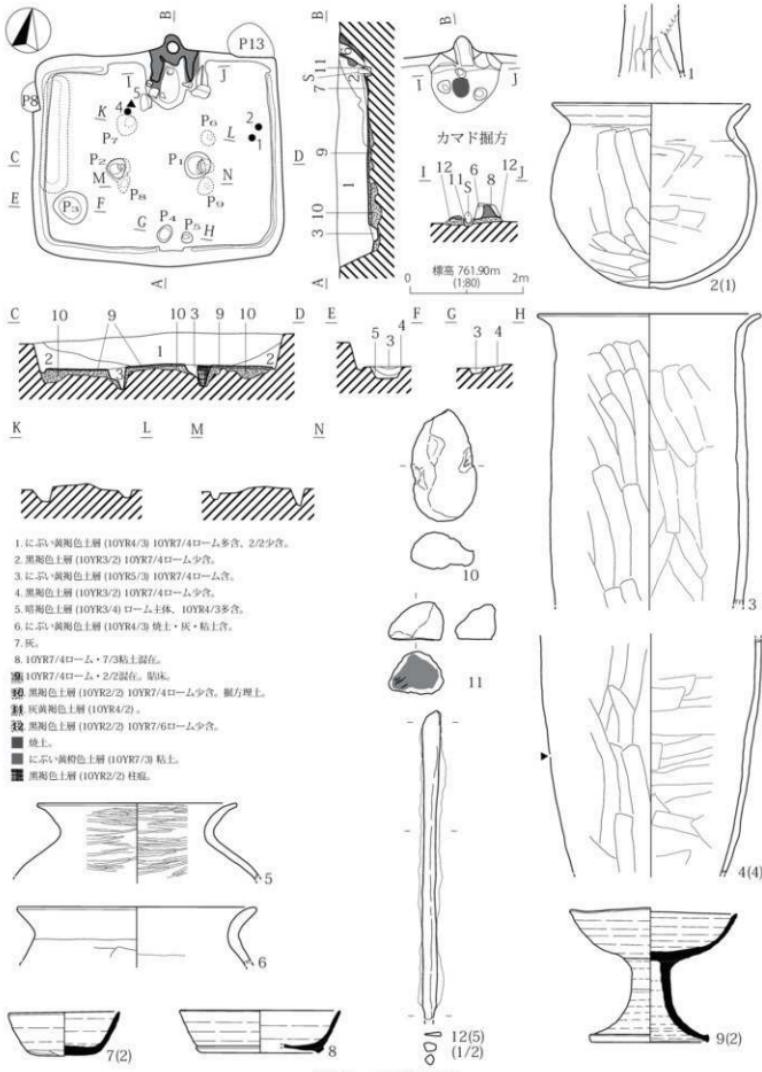
■にふい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/3含。

附灰厚灰1.5~2mm及び焼土理。

第6図 H 3号住居址



第7図 H 4号住居址



第8図 H5号住居址

基のビットが主柱穴であり、 ϕ 16cm大の柱痕が確認された。西南隅の床面に段差が認められることから、本址は拡張された可能性が高い。周溝は確認されなかった。カマドは北壁の中央に存在するが、掘方状態に破壊されていた。

遺物は土師器と須恵器が出土した。土師器には环(1)、甕(2~7)、壺(8)の器種が認められる。环は北武藏型であり、本来は本址と重複するH7号住居址に伴うものと思われる。甕は全て武藏甕であり、最大径を体部上半に有している。壺はヘラケズリ調整のものである。須恵器には环(9~11)、有台环(12)、环蓋(13)、甕(14)、壺(15)の器種が認められる。环9は均状で、11と共にロクロからの切り離しは回転系切である。13の环蓋は「かえり」を有しており、本址に伴うものではなく、H7住居址に帰属するものと思われる。壺15は頸部に隆帯が巡る長頸壺である。図化部分は完形であり、口縁部を欠損した後も使い続けたようである。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代IV期に該当し、8世紀の第IV四半期の実年代が想定される。

● H 7号住居址(第10図)

調査区北端中央部分からやや西寄りで検出された。H6号住居址、M1号溝址に切られる。主軸をN-35°-Wにとり、長軸長6.03m、短軸長5.87m、壁残高0.56m、面積26.75m²の規模であった。床面に均等に配置されるP1~P4の4基のビットが主柱穴である。P4からは ϕ 16cm大の柱痕が確認された。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、東壁のP1近くの周溝から垂直に短めの間仕切溝が1条延びている。カマドは焚口部分の石材が抜き取られ、天井部分は存在しなかったが、煙道部分は比較的良好に残存していた。

遺物は土師器と須恵器が出土した。土師器には环(1~5)、鉢(6)、甕(7)、壺(8~9)の器種が認められる。环は全て北武藏型で、2は内面に暗文が認められる。鉢は外面にヘラケズリ調整が施される小型のもの、甕は口縁部の破片、壺は2点共にヘラミガキ調整が施される。須恵器には环(10)と环蓋(11~12)の器種が認められる。环蓋は「かえり」を有し、擬宝珠つまみが貼付されている。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の古墳時代IV期に該当し、7世紀後半の実年代が想定される。

● H 8号住居址(第11図)

調査区南端の西南隅寄りで検出された。M1号溝址に隣接する。H9号住居址を切り、H11号住居址に切られる。主軸をN-0°-Wにとり、長軸長3.91m、短軸長3.4m、壁残高0.18mの規模である。ビットは5基検出されたが主柱穴は判然としない。北壁のカマド脇から西南隅まで周溝が巡る。西壁の周溝外に床面よりも1段高いベッド状の部分が存在することから、本址は拡張されたものと思われる。カマドは北壁の中央やや東寄りに構築されるが、掘方状態に破壊されていた。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には环(1)と甕(2~3)の器種がある。环は底部ヘラケズリの内面へラミガキ、黒色処理のもので、甕は2点共に武藏甕である。須恵器には环(4~5)と有台环(6)の器種が認められる。环のロクロからの切り離しは回転系切である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代IV期に該当し、8世紀第IV四半期の実年代が想定される。

● H 9号住居址(第12・13図)

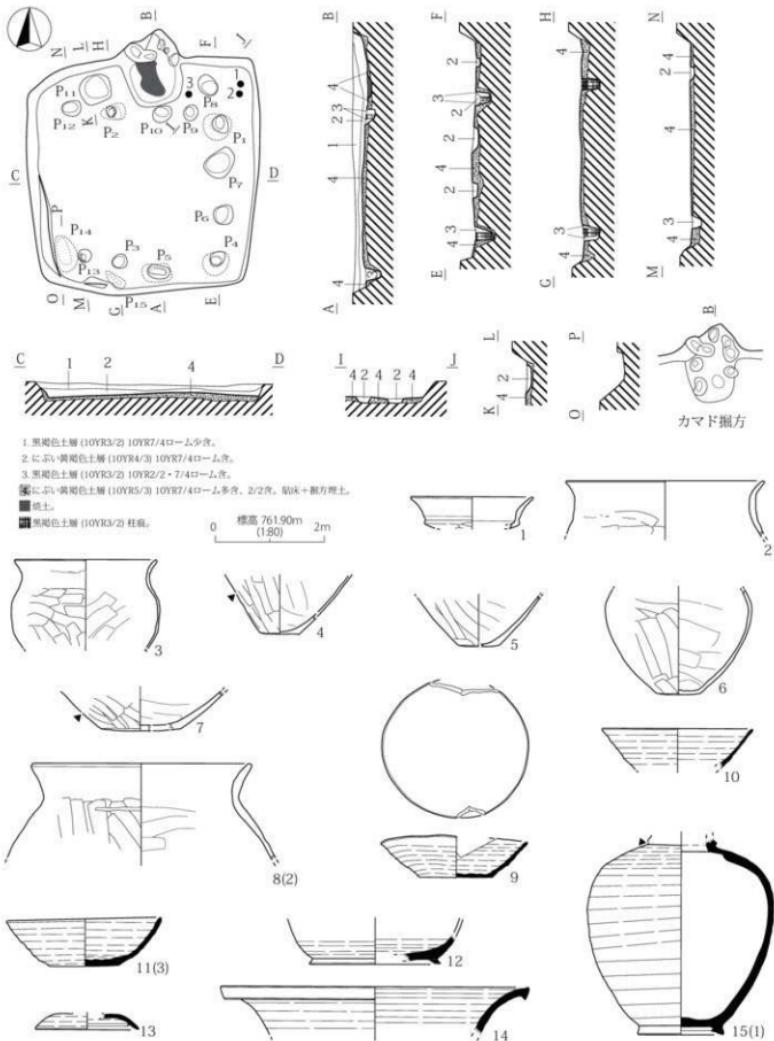
調査区南端中央付近で検出された。H8号住居址に切られる。主軸をN-0°-Wにとり、長軸長5.58m、短軸長5.56m、壁残高0.29mの規模である。12基検出されたビットの内、P1~P3の3基が廃絶時の主柱穴である。P1・P2の掘方及びP8・P9の4基が古い主柱穴であることから、本址は建て替えが行われている。カマドは北壁の中央部分に構築されているが、掘方状態に破壊されていた。北壁下のカマド部分以外と、西壁の南半から南壁及び東南隅の壁下には周溝が認められた。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器には环(1)、甕(2~7)の器種が認められる。环は大振りな所謂「畿内系暗文杯」であり、螺旋と放射暗文が施されている。甕は2が小形の胴張甕であるほかは武藏甕である。確認出来るものは全て体部に最大径を有している。須恵器には环(8~10)、环蓋(11)、甕(12~13)の器種が認められる。环のロクロからの切り離しは回転ヘラ切である。环蓋は天井部が強く張る。甕は広口で頸部が狭い鉢状のものである。石器・石製品は砥石(14)が1点出土した。

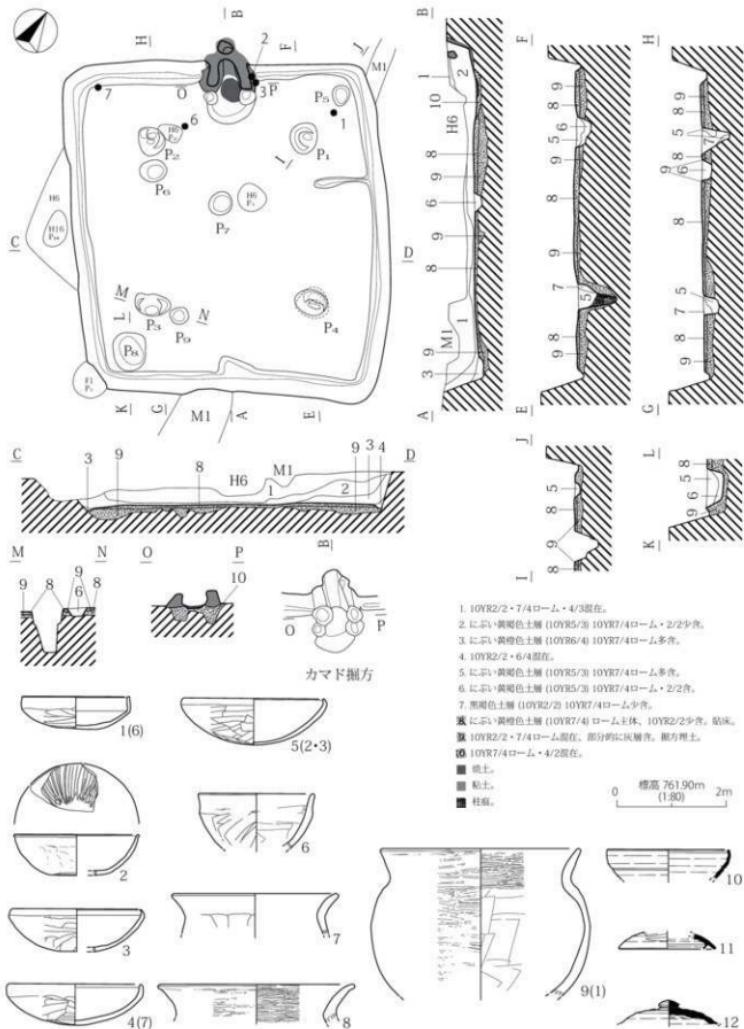
以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代III期に該当し、8世紀第III四半期の実年代が想定される。

● H 10号住居址(第14~15図)

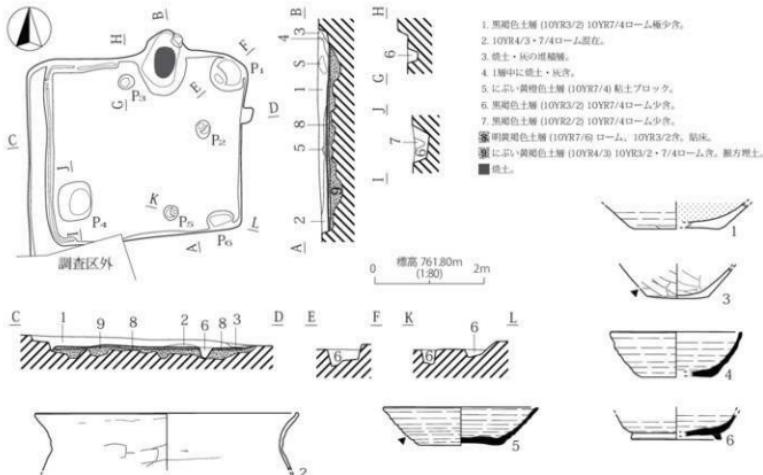
調査区中央付近で検出された。F7・8号掘立柱建物址を切る。主軸をN-18°-Wにとり、長軸長5.39m、短軸長5.23m、壁残高0.51m、面積19.78m²の規模である。11基検出されたビットの内、P1からP4の4基



第9図 H 6号住居址



第10図 H-7号住居址



第 11 図 H 8 号住居址

が主柱穴である。P6 から P8 の 3 基は出入口と思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。カマドは北壁の中央に構築されていたが掘方状態に破壊されていた。

遺物は土師器、須恵器、繩文土器、石器・石製品が出土している。土師器には壺（1～3）、甕（4～8）の器種が認められる。壺は、底部及びその周縁にヘラケズリ調整が施され、内面はヘラミガキ後、黒色処理される。3 は内面に焼成後の刷字が認められる。甕は全て武藏窯で体部に最大径を有する。須恵器には壺（9～11）、有台壺（12～14）、壺蓋（15～18）、甕（19）の器種が認められる。壺のロクロからの切り離しは、回転ヘラ切である。9・10 は外底部にヘラ記号が刻まれている。有台壺のロクロからの切り離しは、回転ヘラ切と回転糸切によるものが認められる。14 の外底にはヘラ記号が刻まれる。壺蓋のつまみには皿状のものと、扁平な擬宝珠形態ものが認められる。甕は大甕の体部片であり、内面には青海波紋の当具痕、外面には平行凹印が残される。繩文土器（20）は頸部付近の深鉢片で、微隆起と繩文が看取される。中期末から後期初頭のものと思われる。石器・石製品は磨・凹石（21）が 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年（奈良・平安時代Ⅲ期）に該当し、8世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

● H 11号住居址

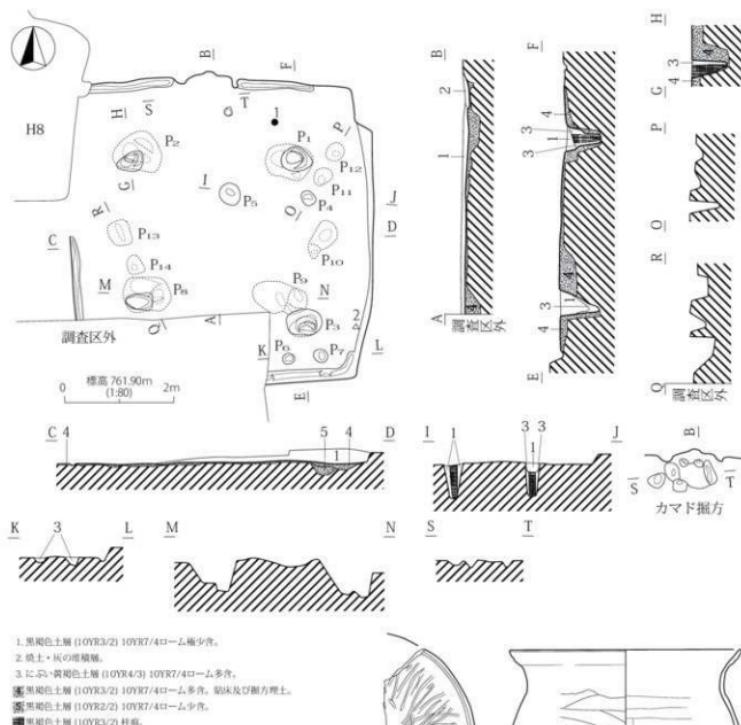
調査区南端のM1 号溝址と、H8 号住居址の狭間にカマド煙道先端部分のみが検出された。物理的に掘り下げることが不可能であったため、未調査である。

● H 12号住居址（第 16 図）

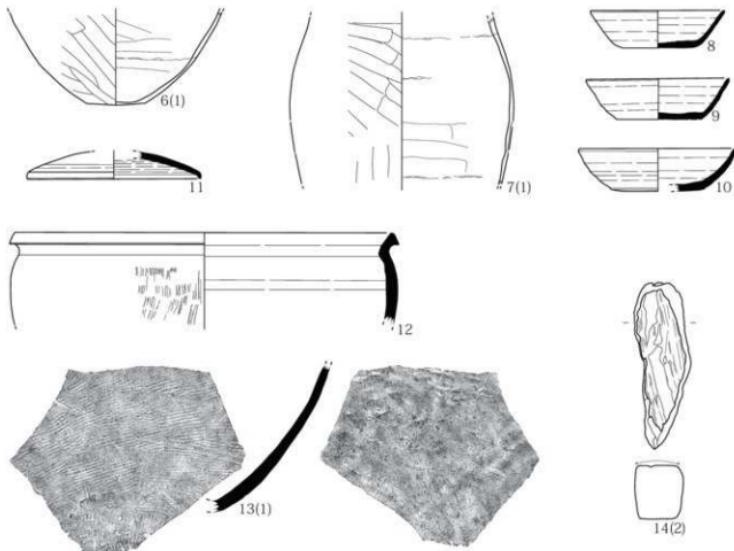
調査区北端の中央やや東寄りで検出された。H14 号住居址、F4・5 号掘立柱建物址、P126・129 に切られる。主軸を N-18°-W にとり、長軸長 5.39 m、短軸長 5.23 m、壁厚高 0.51 m、面積 19.78 m² の規模である。ピットは床面上で 1 基、掘方から 2 基検出されたが、全て主柱穴ではない。カマド東脇から南壁中央までの壁下には周溝が巡る。カマドは北壁の中央に構築されていたが、焚口部分の石が抜き取られ、粘土で構築された袖と煙道部分の一部が残存していた。床下から方形の土坑が 1 基検出されたが、性格は不明である。

出土遺物は北武藏型の土師器壺（1）が 1 点と、内面に青海波紋の当具痕、外面に平行凹印が施された須恵器甕の体部片（2）が 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年（古墳時代Ⅳ期）に該当し、7世紀後半の実年代が想定される。



第12図 H9号住居址(1)



第13図 H9号住居址(2)

● H 13号住居址(第17図)

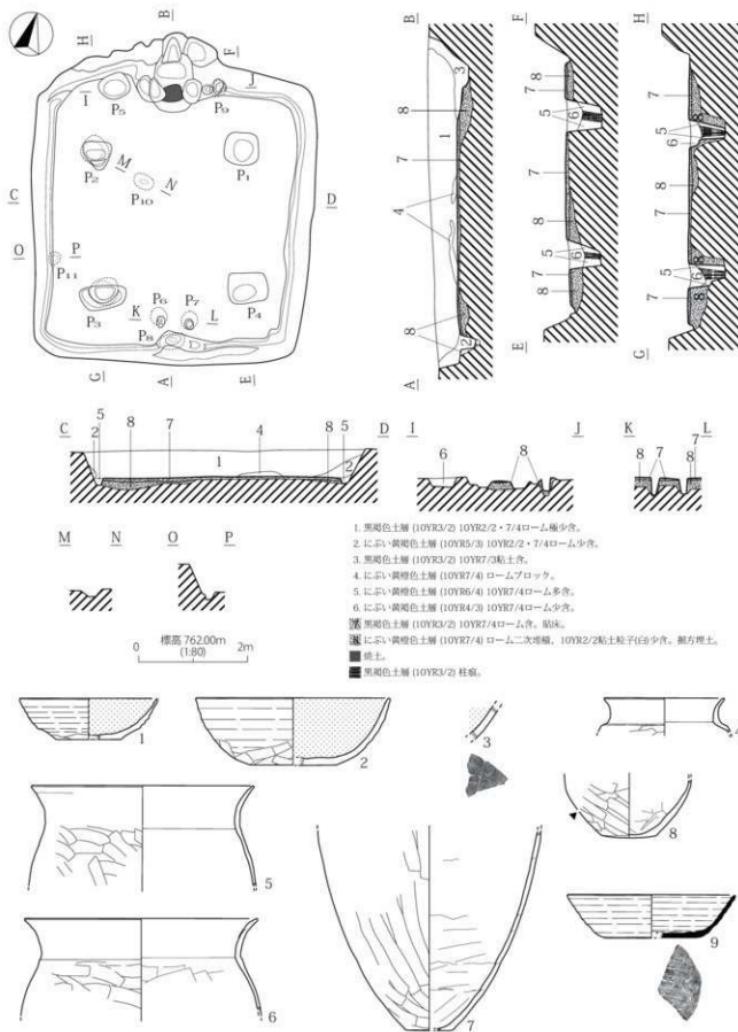
調査区中央やや東寄りで検出された。F9号掘立柱建物址を切る。主軸をN-7°-Wにとり、長軸長4.4m、短軸長4.34m、壁残高0.42m、面積14.74m²の規模である。主柱は東西辺の中央に穿たれたP1・P2の2基であり、φ16cm大の柱痕が確認された。掘方で検出されたP8・P9は出入口施設である。周溝は存在しない。カマドは北壁の中央に構築されているが、掘方状態に破壊されていた。床下から検出された隅丸長方形の土坑D1の性格は不明である。

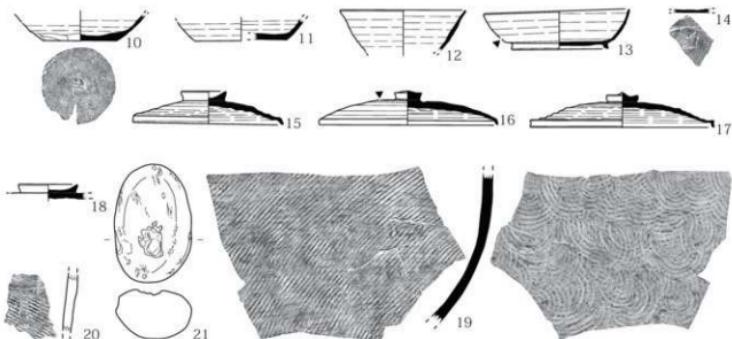
遺物は土師器、須恵器、石器・石製品、鉄器が出土した。土師器には壺(1)、甕(2~5)の器種が認められる。壺は底部ヘラケグリ調整で、内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。甕は全て武藏甕である。最大径は体部に有している。須恵器には壺(6~11)、有台壺(12~13)、壺蓋(14~15)、甕(16)の器種が認められる。壺の口クロコからの切り離しは、回転ヘラ切と回転糸切によるもの認められる。9は杓状で外面に刻書が認められる。有台壺には身の浅い(12)と身の深い(13)の形態がある。壺蓋は天井部が平坦にある形態である。甕は底部近くの破片で、内面の当具痕はナデ調整により消されている。外面には平行叩目が看取される。石器・石製品は砾石(17)が1点出土し、鉄器は刀子片(18)が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴は聖原編年の中奈良・平安時代Ⅲ期に該当し、8世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

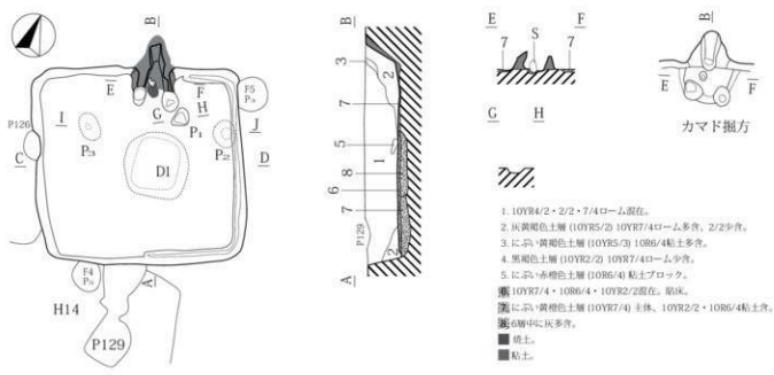
● H 14号住居址(第18図)

調査区北端中央南寄りで検出された。H12号住居址を切り、F4号掘立柱建物址、P103・133・144・145号ピットに切られる。主軸をN-6.2°-Wにとり、長軸長5.49m(張出を含めると6.42m)、短軸長5.77m、壁残高0.56m、面積25.59m²の規模である。14基検出されたピットの内、P1~P4の4基が主柱穴である。主柱の形態は、柱痕からP1が丸太材である他は、割材であった。P12と張出部が出入り口施設と考えられ、良く似た形状の古墳時代住居址とは、張出部の機能が異なる。いづれにせよ、特異な形態の住居である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、北壁の中央には石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。

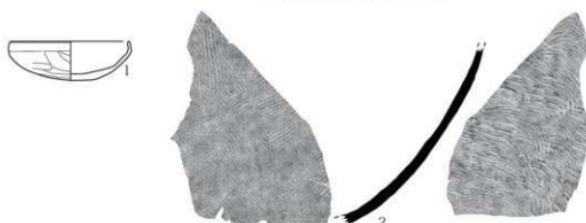




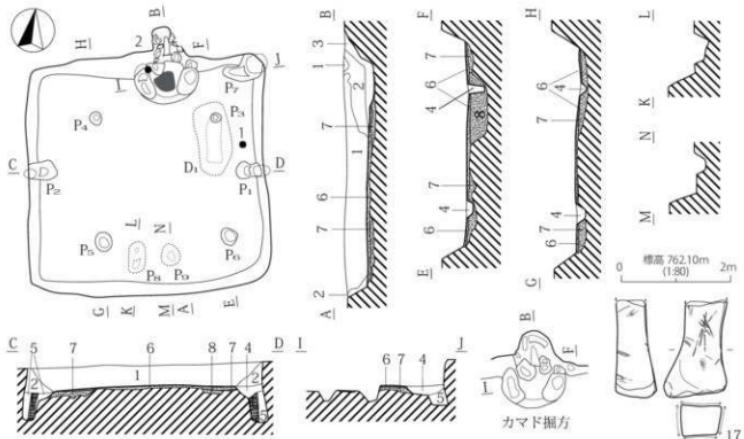
第15図 H 10号住居址(2)



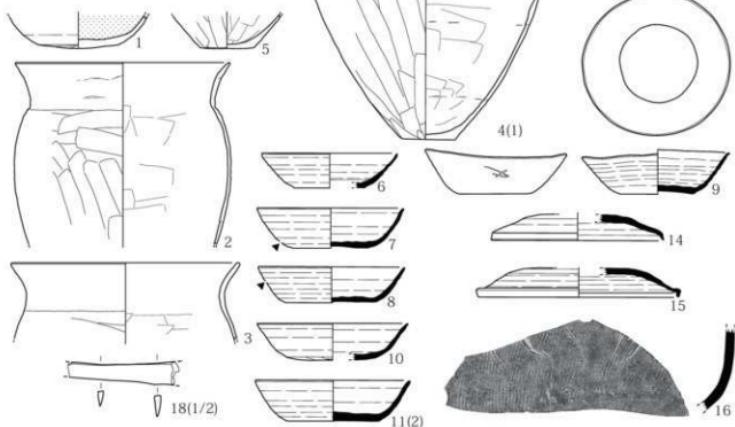
0 標高 762.10m
(1:80) 2m



第16図 H 12号住居址



1. 10YR4/3・5/3混在、3/2・7/4混入・ム多含。
2. 10YR7/4G-ム二三次堆積分2/2の堆積。
3. 2層中に赤色粘土・白色粘土層。
4. に赤・黄褐色土層 (10YR5/3 黏土粒子10R6/4・2/2少含。
5. に赤・黄褐色土層 (10YR5/3 10YR7/4G-ム粒子多含。
- 10YR2/2・7/4G-ム混在、鉄鉢。
- 黑褐色土層 (10YR3/2) 玉体、10YR7/4G-ム・10R6/4粘土含。
- に赤・黄褐色土層 (10YR4/3 灰を内包する土坑。
- 土上。
- 灰褐色土層 (10YR4/2) 柱根。



第17図 H 13号住居址

遺物は土師器と須恵器、鉄器が検出された。土師器には壺(1)と甕(2)の器種が認められる。壺は北武藏型、甕は武藏甕である。須恵器には壺(3)、有台壺(4)、円面硯(5)の器種が認められる。壺は底部のみはへんであり、ヘラケズリ調整が施される。内面が円滑になっており、転用硯の可能性がある。有台壺の底部は回転ヘラケズリ調整が施されているが、口クロからの切り離しは回転ヘラ切による。円面硯は脚部を欠損するが、硯面は完存している。この状態で使用されていたようである。脚には7ヶ所の透かしが認められる。鉄器は柄に木質が残存した刀子片が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴は聖原編年の奈良・平安時代I期に該当し、8世紀第I四半期の実年代が想定される。

● H 15号住居址(第19・20図)

調査区南端中央付近で検出された。他構造との重複関係は有さない。主軸をN-8.5°-Wにとり、長軸長5.94m、短軸長5.72m、壁残高0.46m、面積21.87m²の規模である。東壁に多数穿たれた柱穴は除外し、9基のピットが検出された。P1～P4の4基が主柱穴で、φ16cmの大柱痕が確認された。南壁下中央に位置するP6・P7の2基が入り口施設と思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。石材は軽石を面取り加工したものであった。掘方の調査から本址よりも一回り小型の旧住居の痕跡が確認された。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器は全て甕である。1が古墳時代的なヘラケズリ調整の小型甕、2・3は武藏甕、4は北野型甕である。武藏甕の最大径を口線に有している。須恵器には壺(5)、有台壺(6・7)、甕(8・9)の器種が認められる。甕も2点共に破片資料である。9は甕の頸部片であり、窓印が刻まれる。石器・石製品には砥石(10)、台石(11)、軽石製品(12)、磨石(13・14)の器種が認められる。軽石製品(12)は円形で、中に円孔が穿たれる。紡錘車かもしない。

以上の出土遺物の特徴は聖原編年の奈良・平安時代I期に該当し、8世紀第I四半期の実年代が想定される。

● H 16号住居址(第21図)

調査区南端中央付近で検出された。東南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。主軸をN-1.3°-Wにとり、壁残高0.48mの規模である。検出部分の壁下には、カマド部分を除き周溝が巡る。ピットは掘方から1基検出されただけであり、主柱穴は有さないものと思われる。カマドは北壁の中央と思われる部分に存在し、粘土で構築された袖が残存していた。

遺物は土師器武藏甕(1)と須恵器壺(2)の2点が出土したのみである。須恵器壺の底部はヘラケズリ調整が施されている。

以上の出土遺物の特徴から本址の年代は、8世紀奈良時代に比定される。

第2節 掘立柱建物址

● F 1号掘立柱建物址(第22図)

調査区北西端付近で検出された。H7号住居址を切る。長軸方位をN-8°-Wにとり、桁行2.05m、梁間1.84m、面積3.77m²の規模である。確認された柱痕径はφ12cmであった。一間×一間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明であるが、H7号住居址との重複関係から古墳時代後期7世紀後半を廻ることはない。

● F 2号掘立柱建物址(第22図)

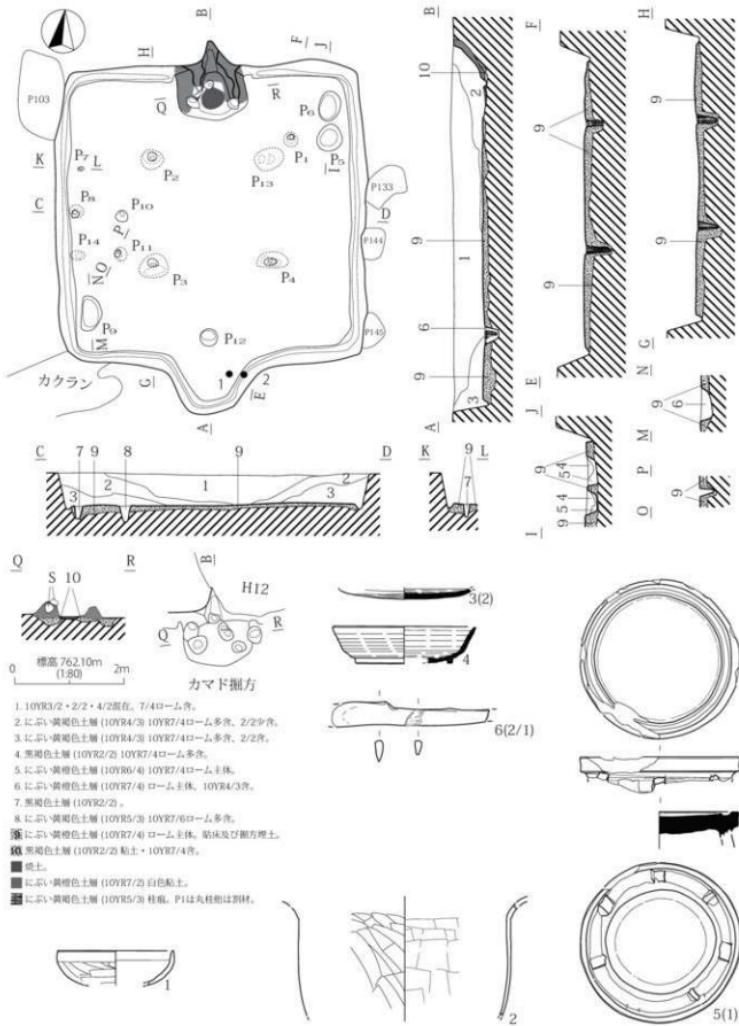
調査区北端中央付近で検出された。他構造との重複関係は有さない。長軸方位をN-20°-Wにとり、桁行2.1m、梁間1.9m、面積3.99m²の規模である。確認された柱痕径はφ13cmであった。一間×一間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

● F 3号掘立柱建物址(第22図)

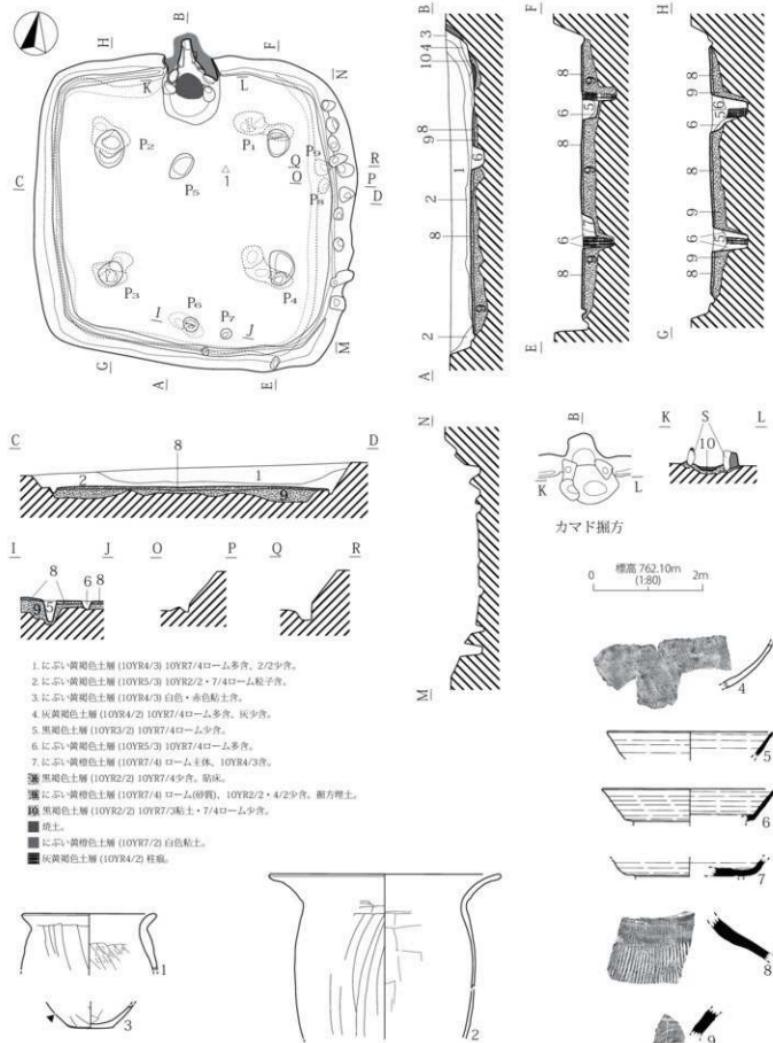
調査区中央付近で検出された。他構造との重複関係は有さない。長軸方位をN-80°-Eにとり、桁行4.5m、梁間3.9m、面積17.55m²の規模である。確認された柱痕径はφ13cm～22cmであった。二間×三間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

● F 4号掘立柱建物址(第22図)

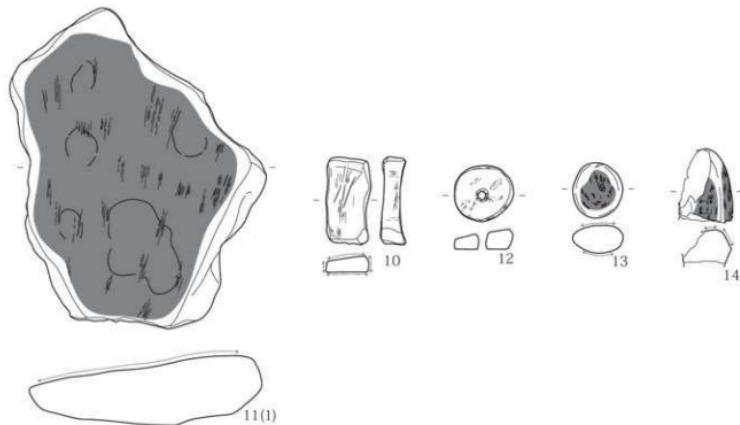
調査区北東端付近で検出された。H12・14号住居址を切る。長軸方位をN-80°-Eにとり、桁行5.4m、



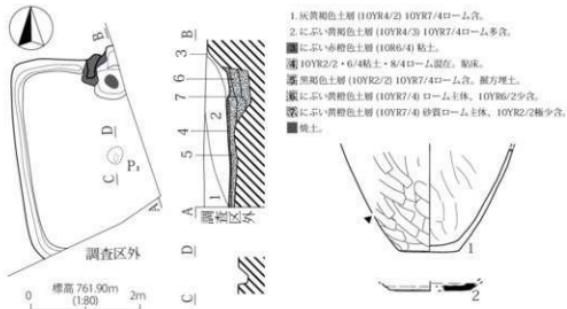
第18図 H 14号住居址



第19図 H15号住居址(1)



第20図 H 15号住居址(2)



第21図 H 16号住居址

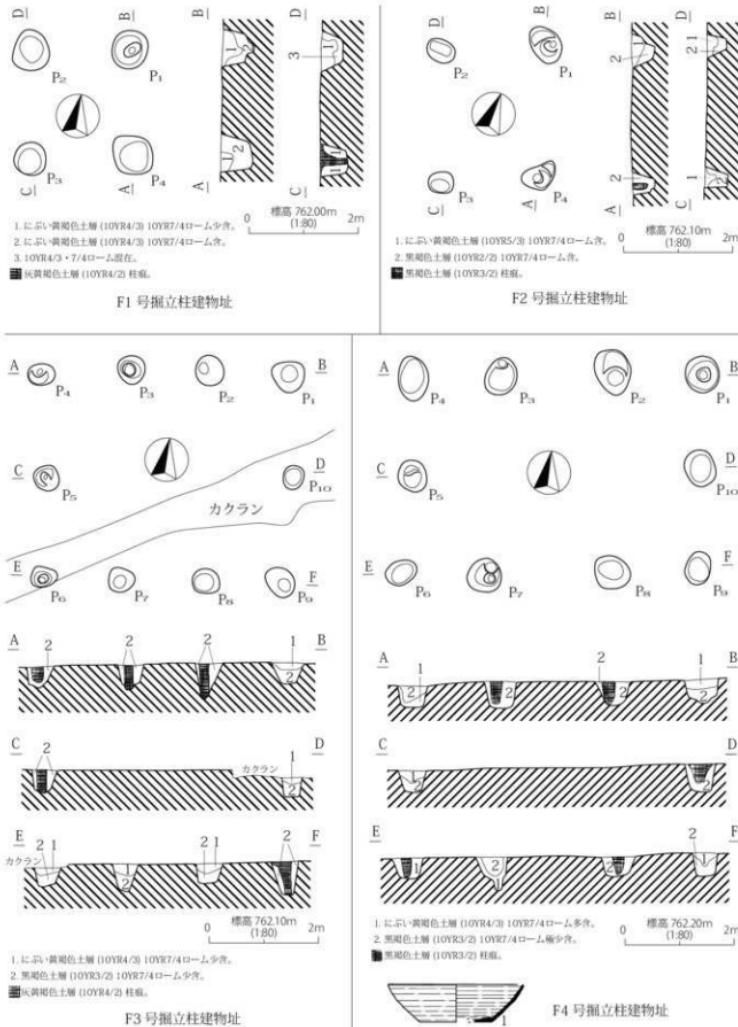
梁間 3.77 m、面積 20.36m²の規模である。確認された柱痕径は ϕ 18 ~ 24cm であった。二間×三間の側柱形態である。出土遺物は須恵器の坏が 1 点出土しているが、H 14号住居址と重複する P7 出土であり、本址に確實に帰属するか否かは不明である。ロクロからの切り離しは回転ヘラ切で、奈良時代の所産である。

● F 5号掘立柱建物址(第23図)

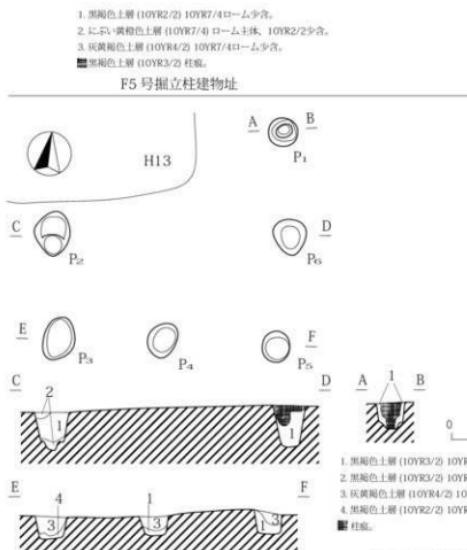
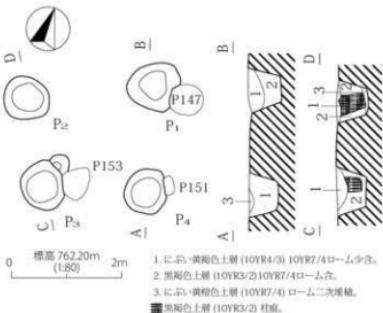
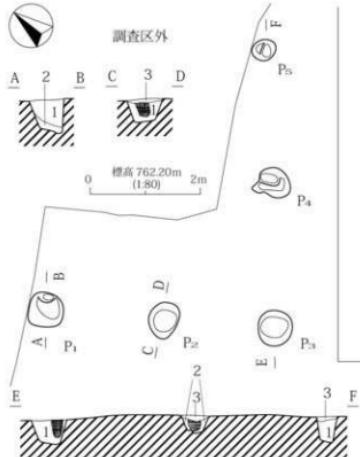
調査区北東端で検出された。H 12号住居址を切る。調査区外に延びるため全容は不明である。長軸方位を N - 51° - E にとり、桁行 4.91 m、梁間 4.0 m、面積 19.64m²の規模である。確認された柱痕径は ϕ 20cm であった。二間×二間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

● F 6号掘立柱建物址(第23図)

調査区中央東寄りで検出された。P147・151・153に切られる。長軸方位を N - 71° - E にとり、桁行 2.07 m、梁間 1.72 m、面積 3.56m²の規模である。確認された柱痕径は ϕ 27 ~ 34cm であった。一間×一間の側柱形態である。



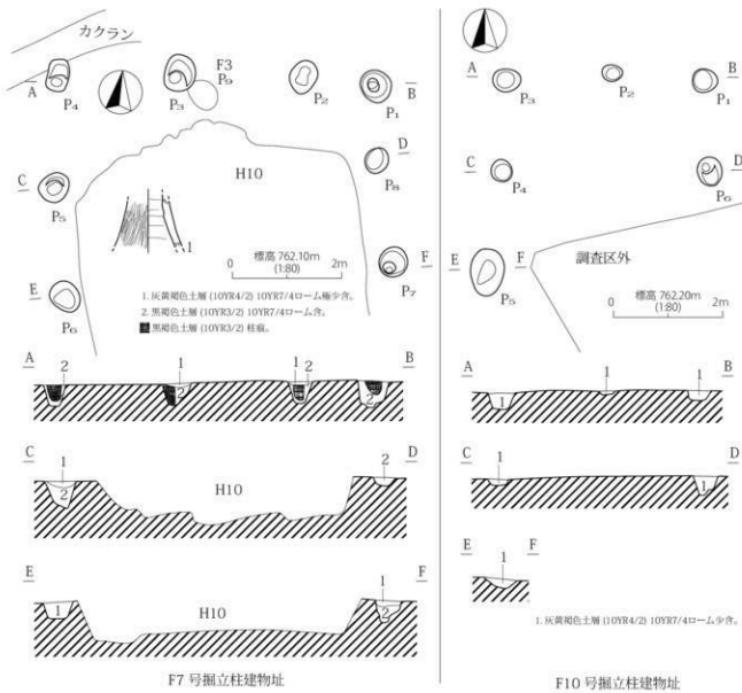
第 22 図 掘立柱建物址 (1)



F9号掘立柱建物址



第23図 掘立柱建物址(2)



第24図 掘立柱建物址(3)

ある。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

● F7号掘立柱建物址(第25図)

調査区中央で検出された。H10号住居址に切られる。長軸方位をN-83°-Eにとり、桁行5.9m、梁間4.0m、面積23.60m²の規模である。確認された柱痕径はφ24cmであった。二間×三間の側柱形態である。出土遺物は土師器高环の脚部片1点がP1から出土している。これを指標とするならば、本址は古墳時代後期7世紀後半の所産である。

● F8号掘立柱建物址(第24図)

調査区中央で検出された。H10号住居址に切られる。長軸方位をN-74°-Eにとり、桁行2.2m、梁間1.5m、面積3.3m²の規模である。確認された柱痕径はφ24cmであった。一間×一間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明であるが、H10号住居址との重複関係から、8世紀後半四半期を廻ることはない。

● F9号掘立柱建物址(第23図)

調査区中央南東寄りで検出された。H13号住居址に切られる。長軸方位をN-9°-Wにとり、桁行4.16m、

梁間 3.92 m、面積 16.3m²の規模である。確認された柱痕径は φ 13cm であった。二間×二間の側柱形態である。出土遺物は須恵器甕の底部片が P3 から出土している。これを指標とするならば、本址は奈良時代の所産である。

● F10号掘立柱建物址（第 24図）

調査区南端東寄りで検出された。他遺構との重複関係は有さない。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。長軸方位を N—90°—E にとり、桁行 3.8 m、梁間 3.5 m、面積 13.3m²の規模である。柱痕は確認されなかった。二間×二間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

第 3 節 土坑

● D 1 号土坑（第 25図）

調査区南西端で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面形態は楕円形で、断面形態は逆梯形である。長軸方位を N—32°—W にとり、長軸長 2.51 m、短軸長 1.5 m、深度 1.03 m、面積 3.22m²の規模である。本址は绳文時代の窪穴であり、底面には 2 基の小径のピットが穿たれていた。その他に 3 層上面から埋設された小径の柱痕（杭）が 1 ヶ所確認された。出土遺物は皆無である。

● D 2 号土坑（第 25図）

調査区西端中央付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面形態は長方形、断面形態は逆梯形である。長軸方位を N—8.5°—W にとり、長軸長 2.32 m、短軸長 1.04 m、深度 0.16 m、面積 3.22m²の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 3 号土坑（第 25図）

調査区南東端で検出された。他遺構との重複関係は有さないが、東方向に調査区外に延びる。平面形態は楕円形、断面形態は逆梯形である。長軸方位を N—19.4°—W にとり、長軸長 3.36 m、短軸長 2.93 m、深度 1.61 m の規模である。

遺物は 1・2 層から集中的に出土した。図化不可能な土師器を極少数含むが、ほとんどは須恵器である。また、獸骨と人頭大の礫が少なからず混在した。須恵器には环（1～5）、有台环（6～10）、环蓋（11・12）、甕（13～15）、甑（16）の器種が認められる。环・有台环のロクロからの切り離しは回転ヘラ切が大勢であるが、4 のような回転糸切によるものも極少数存在する。有台环（8）の外底にはヘラ記号が認められた。环蓋のつまみは皿状である。甑は把手部分の破片のみが出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に該当し、8世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定されている。

第 4 節 溝址

● M 1 号溝址（第 27図）

調査区中央西寄りを南北に縱断する。検出長 26.0 m、最大幅 1.38 m、最大深度 0.8 m の規模である。H 6・7 号住居址を切り、P 28・81 に切られる。覆土は砂粒と砂利、地山 P1 の複数回に亘る重複堆積であり、水が北から南に断続的に流れていったようである。遺物の多くは砂利層に混在しており、小破片が多い。図化できた遺物は須恵器环（1）、有台环（2・3）、石鎚（4）の 4 点である。本址は、平安時代以降の所産と思われる。

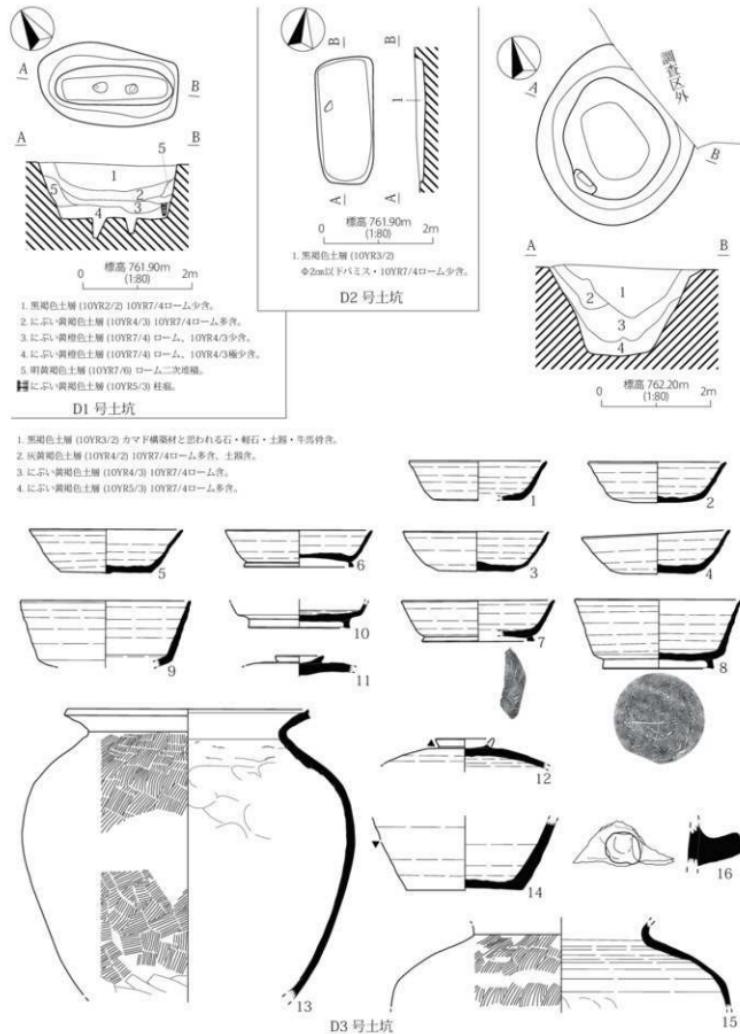
第 5 節 ピット

● P 1～P 2 3 6（第 28～31、33～37 図）

236 基検出された。詳細については計測表を参照願いたい。調査区北半に集中する傾向が認められる。多くのものは出土遺物ではなく時期・性格共に不明である。

第 6 節 遺構外出土遺物（第 38図）

須恵器平瓶の口縁部と思われる破片が 1 点出土している。



第25図 土坑

第Ⅲ章　まとめ

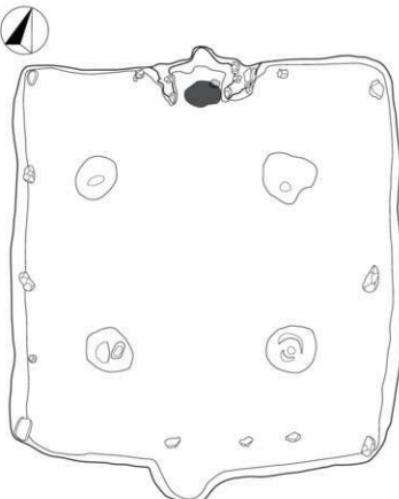
●張出部を持つ住居址について(第26・32)

今回の調査において、佐久地域では古墳時代後期6世紀の竪穴住居址に特徴的な、カマド対面する辺の中央部分に方形の張出を有する平面形態のものが奈良時代8世紀にも存在することが確認された。類例を探すと、前田遺跡II H46号住居址、芝宮遺跡群175号竪穴住居址、中原遺跡群131号竪穴住居址などが管見にふれたのみであり、稀有な存在であることは確かなようである。

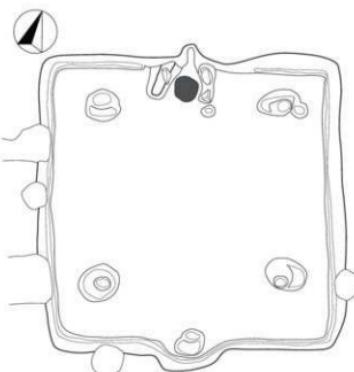
芝宮例は、張出部分には柱穴を持たず、張出も小規模で、平面形状も方形というよりは稍円である。中原例も張出は小規模であるが、柱穴が存在し、平面形状は方形である。年代は2例共に8世紀半ばが比定されている。前田IIのH46号住居址は前2例とは異なり、張出部分の規模が大きく、張出の前面に柱穴が存在し、平面形状は方形である。時期的には前2例よりも古く、7世紀後半代が比定される。

今回の調査で検出されたH14号住居址は、年代的には前田II H46号住居址よりも新しく、8世紀第一四半期の実年代が想定される。形態的には前田II H46号住居址と同じである。各遺跡の報告書記載の該当住居址の年代に準拠するならば、前田II H46号住居址から今回調査のH14号住居址、芝宮遺跡群175号竪穴住居址・中原遺跡群131号竪穴住居址への変遷が認められる。つまり、古墳時代後期7世紀後半に出現し、順次小型化をし、奈良時代8世紀半ばで消滅する。

古墳時代6世紀のものとの大きな相違は、古墳時代のものはカマド脇の貯蔵穴を張出部分に移動した形態であるのに対し、7世紀後半以降のものは貯蔵穴ではないという、機能の違いであり、当然出自が異なるものであろうことが推測される。現状ではあまりにも類例が少なく、その存在を指摘することに留めるが、注意が必要な遺構である。

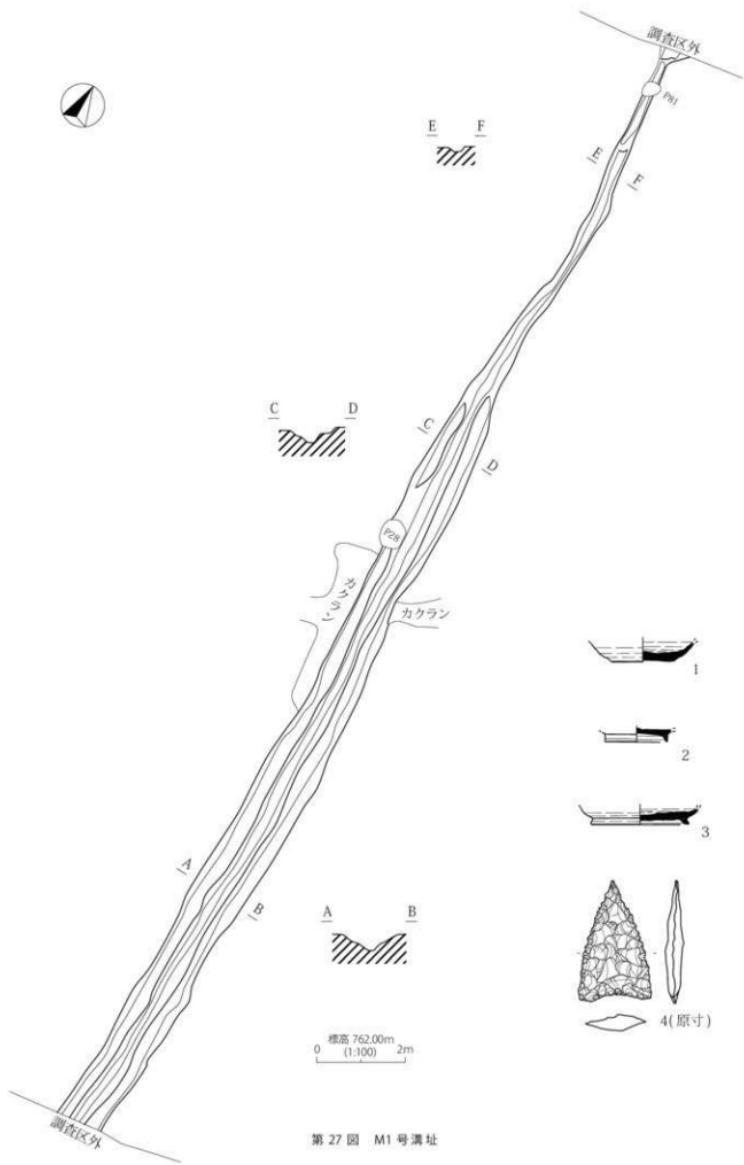


芝宮遺跡群 175号竪穴住居址

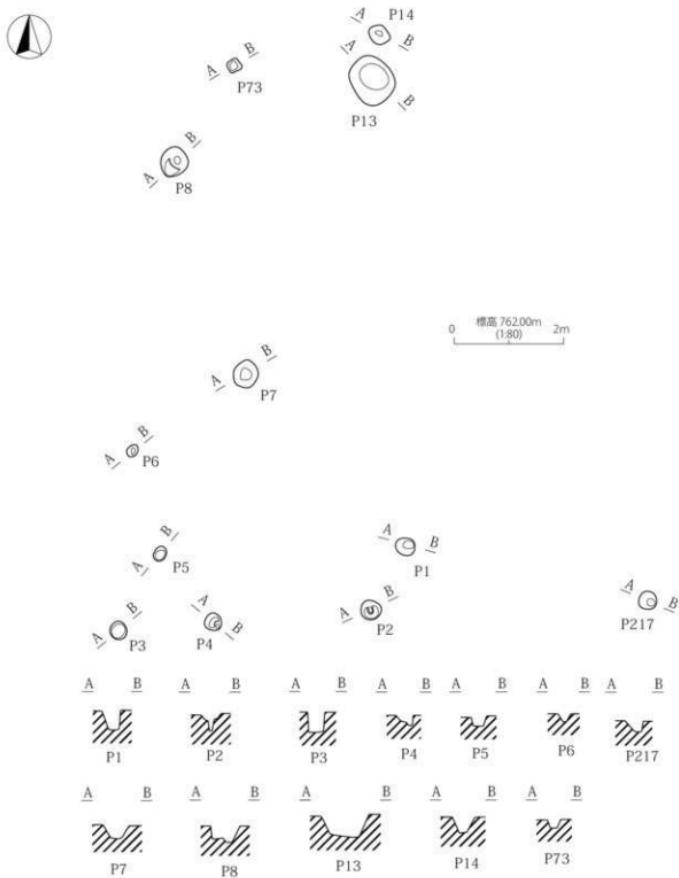


中原遺跡群 131号竪穴住居址

第26図　張出部を持つ住居址(1)



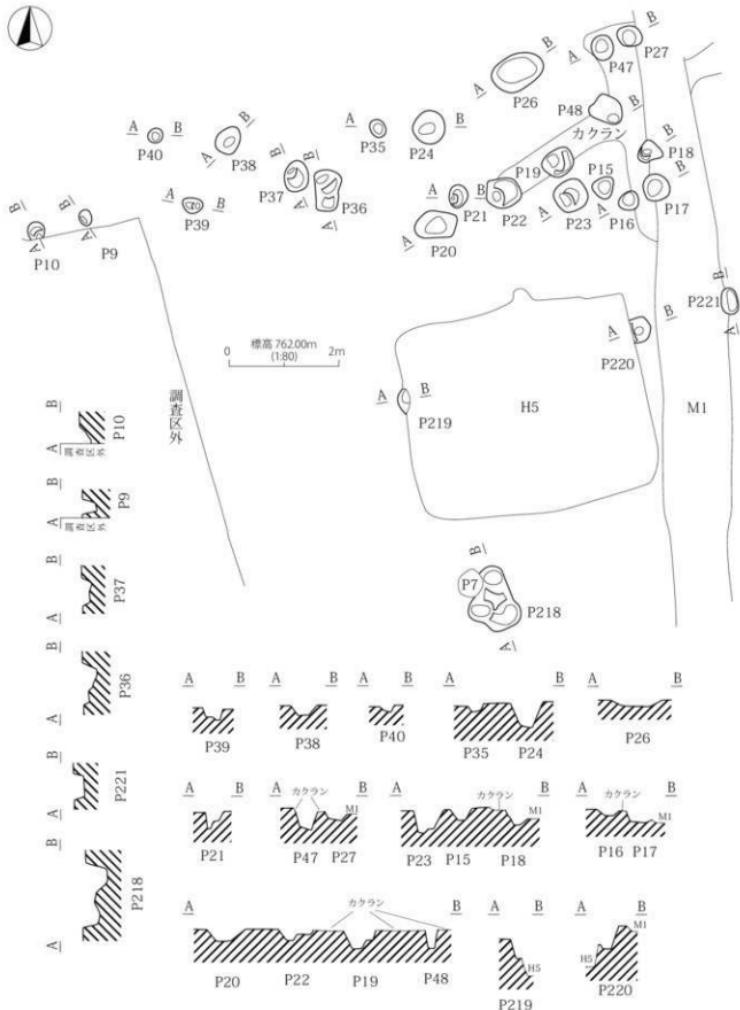
第27図 M1号溝址



第 28 図 ピット (1)

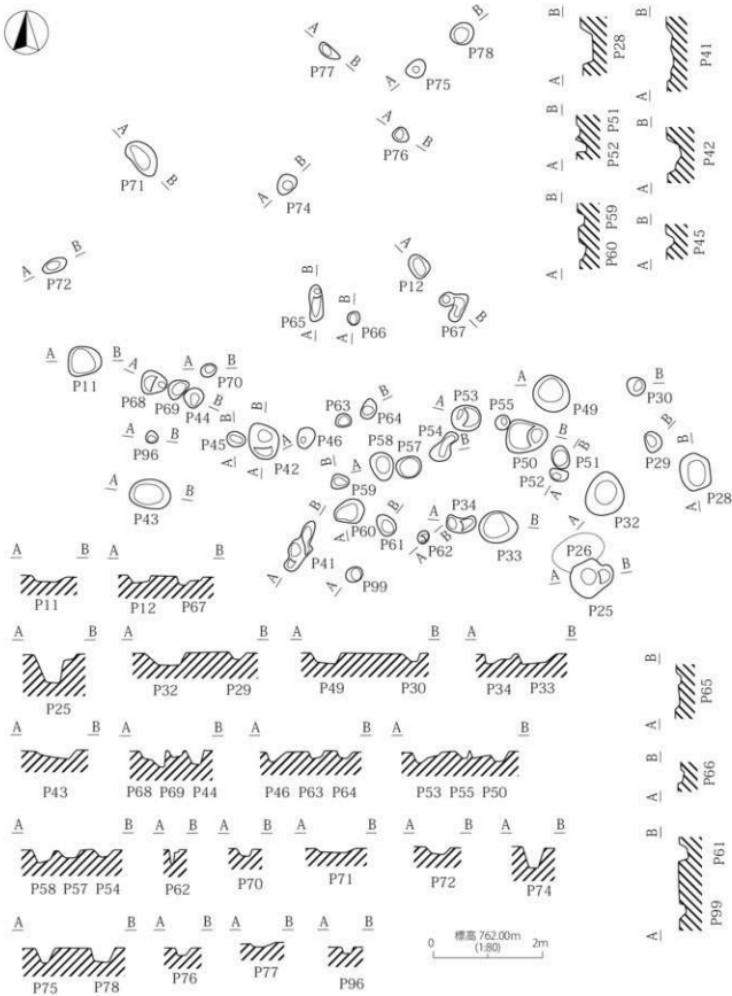
●円面礎について(第 39図)

前項でも記したが、今回の調査において脚を欠損する圈足円面礎が 1 点出土した。住居址床面からの出土であり、年代が確定できる資料である。原明芳氏の「信濃の陶礎」(2011、長野県立歴史館研究紀要 17 号)によれば、



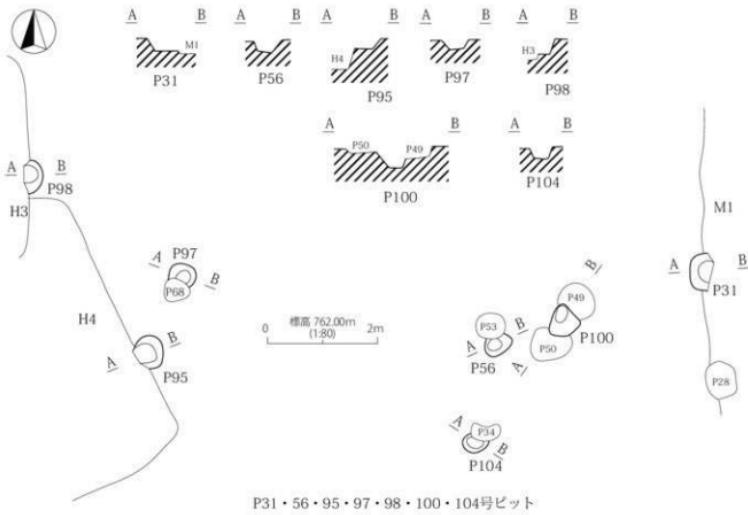
P9・10・15~24・26・27・35~40・47・48・218~221号ピット

第29図 ピット(2)



P11・12・25・28~30・32~34・41~46・49~55・57~72・74~78・96・99号ピット

第30回 ピット(3)



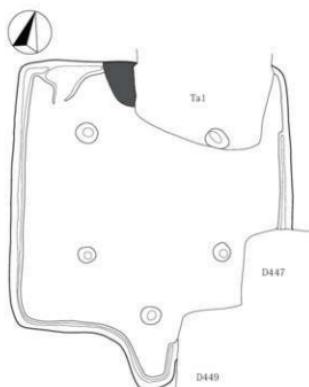
P31・56・95・97・98・100・104号ピット

第31図 ピット(4)

佐久郡内では15遺跡から27点の専用硯（硯を目的に生産されたもの）の出土が確認されている。年代的には西近津遺跡群出土の「中空円面硯」が最も古く7世紀後半である。形態的には前述の「中空円面硯」と儒儘遺跡出土の「風字硯」の2例以外は「團足円面硯」であり、本例も「團足円面硯」である。「團足円面硯」の規格には、硯面が11cm前後、14cm前後、20cm超の大まかに3種類の物が認められる。20cm超の規格のものは都衙推定地のような特別な遺跡からの出土品であり、一般的な集落遺跡出土のものは11cm前後の規格のものが多い。佐久郡内で14cm前後の規格のものが出土する遺跡は、大規模集落遺跡か、官衙ないし官衙関連遺跡に集中する傾向が認められるようである。本例もこの規格に該当しており、隣接する宮ノ反A遺跡には官衙跡が存在する。

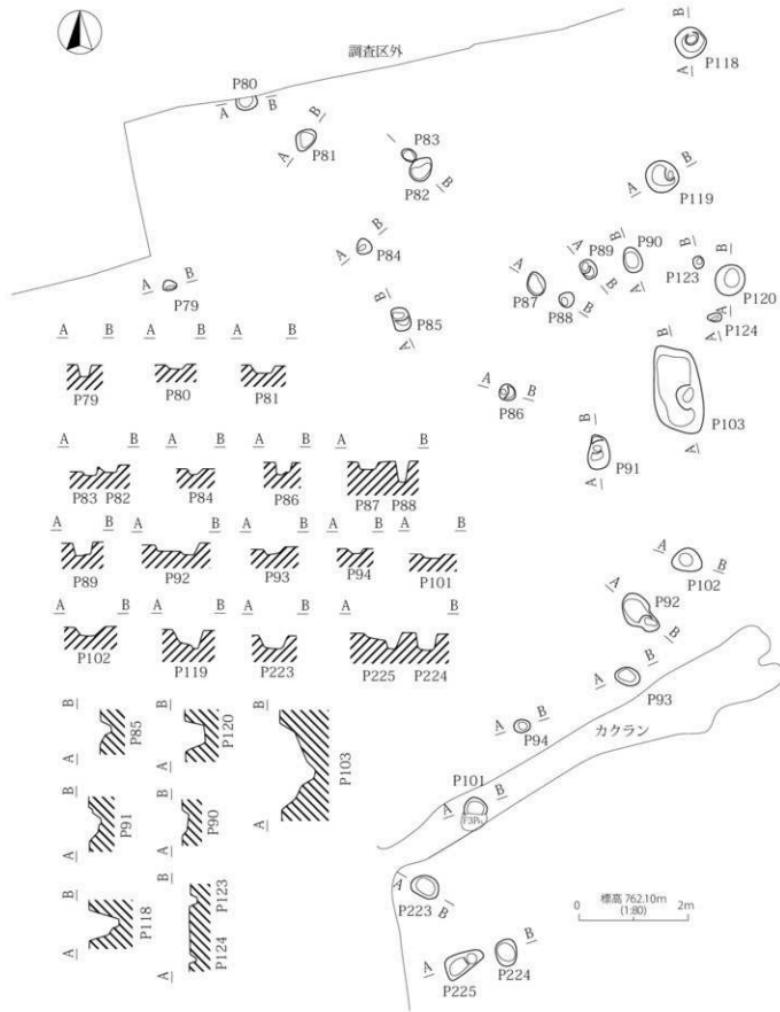
前田遺跡群とその周辺では今までのところ御代田町前田遺跡で2点、佐久市前田遺跡Ⅲで1点、小諸市鈎物師屋遺跡で1点、そして今回出土例1点を加えた計5点の團足円面硯が出土している。御代田町前田H20、小諸市鈎物師屋第13号住居址、そして今回の出土例が14cm前後の規格で、他の2点が11cm前後の規格である。時期的には本例が8世紀第I四半期のほかは、8世紀第IV四半期から9世紀初頭の年代が比定されている。

本例の出土遺構が前項の張出を持つH14号住居址であることを考え合わせると、H14号住居址が同時期の他の住居址とは異なる性格の遺構である可能性が強いように思われる。



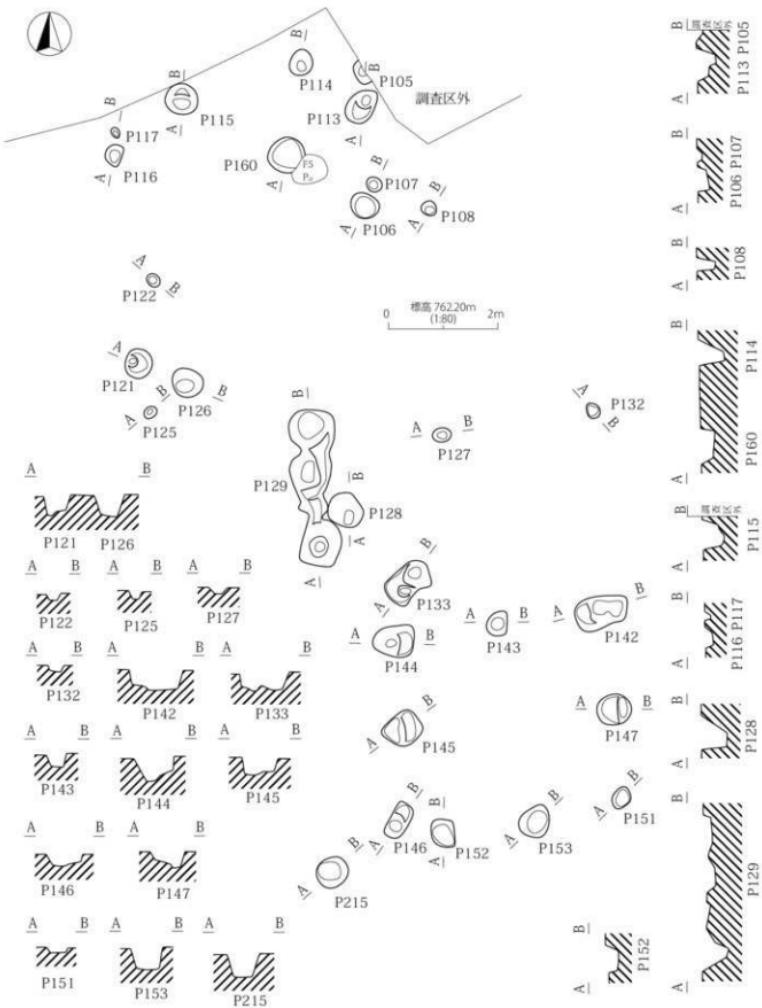
前田II H46号住居址

第32図 張出部を持つ住居址(1)



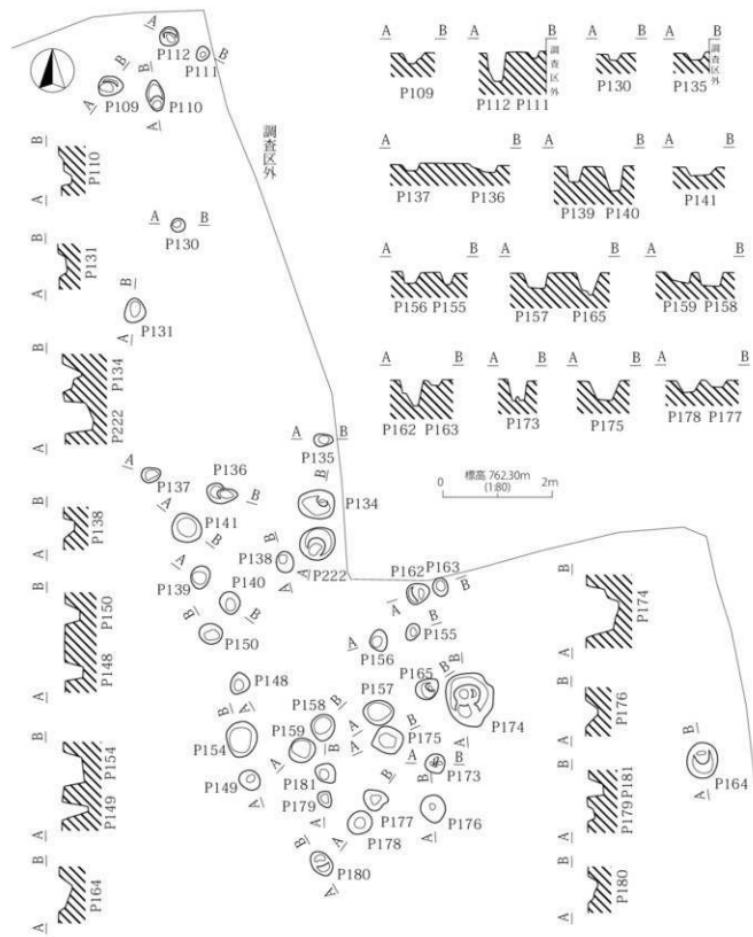
P79~94 • 101~103 • 118~120 • 123 • 124 • 223~225号ピット

第33図 ピット(5)



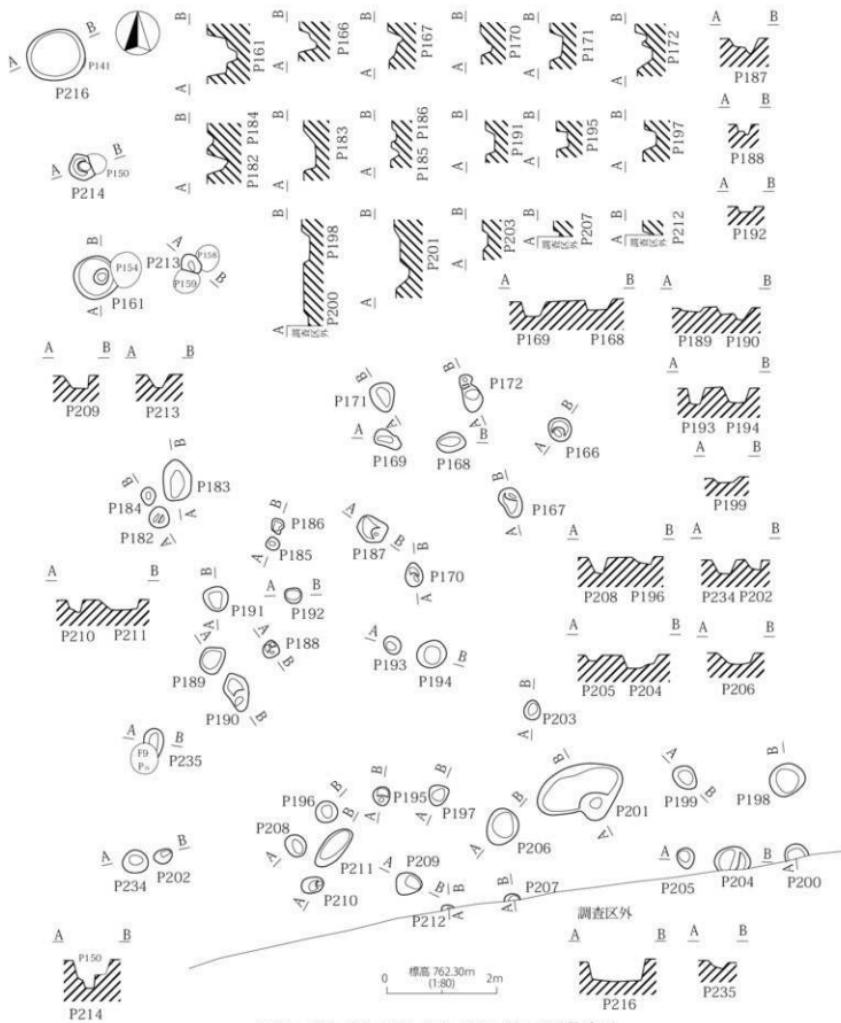
P105~108・113~117・121・122・125~129・132・133・142~147・151~153・160・215号ビット

第34図 ピット(6)



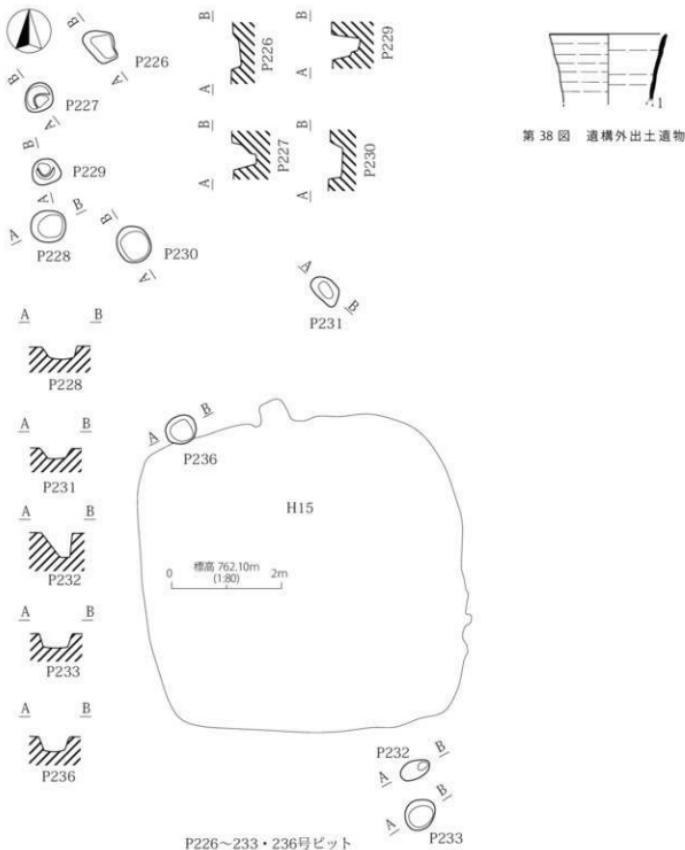
P109~112・130・131・134~141・148~150・154~159・162~165・173~181・222号ビット

第35図 ビット(7)



P161・166～172・182～214・216・234・235号ピット

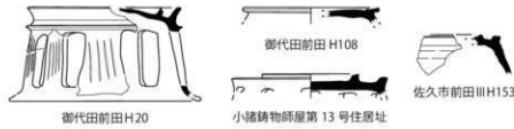
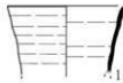
第36図 ピット(8)



P226~233・236号ピット

第37図 ピット(9)

第38図 遺構外出土遺物



第39図 周辺出土円面鏡

住居地計測表

測量名	測量条件	主施設位	共通部	施設部	施設部	ピット	床面	床面	施設部	施設部	施設部	施設部
H	調査点外に至る	N-16'-W	3.64	—	0.36	—	—	—	—	—	—	—
H.2	調査点外に至る	N-25'-S-W	5.45	—	0.47	—	—	—	—	—	—	—
H.3	—	—	—	—	0.40	—	—	—	—	—	—	—
H.4	H.3・P.1・P.3に切れる、調査点外に至る	N-27'-W	5.35	—	0.51	—	—	—	—	—	—	—
H.5	P.3・P.8に切れる、調査点外に至る	N-10'-W	4.43	3.71	0.56	12.00	9	カマド、厨戸	—	—	—	—
H.6	P.3・P.8に切れる、M.1に切れる	N-0'-W	4.36	4.28	0.25	14.00	14	カマド、	—	—	—	—
H.7	H.6・M.1に切れる	N-35'-W	6.03	5.87	0.56	26.75	9	カマド	—	—	—	—
H.8	H.7を切る	N-0'-W	3.91	3.49	0.18	—	—	—	—	—	—	—
H.9	H.8に切れる	N-0'-W	5.56	5.56	0.29	—	—	—	—	—	—	—
H.10	H.7・8を切る	N-18'-W	5.39	5.25	0.31	19.78	11	カマド、厨戸	—	—	—	—
H.11	H.8を切る	N-19'-W	3.61	3.83	0.61	10.87	3	カマド	—	—	—	—
H.12	H.4・F.4・P.125・129に引かれる	N-7'-W	4.40	4.34	0.42	14.74	9	カマド	—	—	—	—
H.13	F.4を切る	N-6'-S-W	5.49	5.77	0.56	25.39	14	カマド、	—	—	—	—
H.14	H.2を切り、F.4、P.103・133・144・145に引かれる	N-8'-S-W	(6.12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H.15	—	N-13'-E	—	—	0.46	—	—	—	—	—	—	—
H.16	調査点外に至る	N-90'-E	3.80	—	—	—	—	—	—	—	—	—

独立柱建物見計測表

測量名	測量条件	主施設位	柱子長	梁間長	柱頭	柱頭	柱頭	柱頭	柱頭	柱頭	柱頭	柱頭
F	H.7を切る	N-20'-S-W	2.05	1.84	3.77	0.12	2.05	1.84	—	—	—	—
F.2	—	N-80'-E	2.10	1.90	2.99	0.13	2.10	1.90	—	—	—	—
F.3	N-80'-E	N-80'-E	4.50	3.90	17.55	0.13 ~ 0.22	1.37 ~ 1.62	1.95	—	—	—	—
F.4	H.12・14を切る	N-80'-E	5.40	3.77	26.95	0.16 ~ 0.24	1.32 ~ 2.20	1.90	—	—	—	—
F.5	H.12・14を切る	N-51'-E	4.91	4.61	16.64	0.26	2.54 ~ 2.71	1.88 ~ 2.12	1.95 ~ 2.12	1.60	—	—
F.6	H.147・151・153に引かれる	N-11'-E	2.07	1.72	2.56	0.27 ~ 0.34	2.07	1.78	—	—	—	—
F.7	H.10に引かれる	N-83'-E	5.90	4.05	22.60	0.24	1.30 ~ 2.40	1.46 ~ 2.00	—	—	—	—
F.8	H.10に引かれる	N-74'-E	2.20	1.50	3.30	0.24	—	2.20	1.50	—	—	—
F.9	H.13に引かれる	N-9'-W	4.16	3.92	16.30	0.13	2.08	1.92 ~ 2.00	—	—	—	—
F.10	—	N-90'-E	3.80	3.50	13.30	—	2.08 ~ 1.70	1.60 ~ 1.90	—	—	—	—

土均計測表

測量名	測量条件	平出側	長出側	其他の	其の他							
D.1	—	N-32'-W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D.2	—	N-65'-W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
D.3	—	N-184'-W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

溝地計測表

測量名	測量条件	溝地	溝地	溝地	溝地	溝地	溝地	溝地	溝地	溝地	溝地	溝地
P.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P.2	円形	36	38	32	37	107R/2	107R/4	107R/3	107R/2	107R/4	107R/3	107R/2
P.3	円形	35	31	38	107R/2	107R/4	107R/3	107R/2	107R/4	107R/3	107R/2	107R/3

ビット計測表(1)

測量名	測量条件	半周形										
P.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット計測表(2)

部品名	P12 5引切替	平面用電極	尖端用電極	測定条件	測定結果	半導体	異物間隔	半導体	異物間隔	半導体	異物間隔
P.8 P18 5引切替	円形	52	47	30 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P5.1 5引切替	—	54	—	24 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P.9 HSを切り替	円形	58	50	26 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P5.2 5引切替	—	53	41	15 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P.9 HSを切り替	円形	30	24	29 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P5.3 5引切替	—	35	28	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P10 圆柱在外に張る	—	31	22	10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P5.9 5引切替	—	45	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	半導体
P11 H4を切り替	細孔形	61	54	11 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.0 5引切替	—	57	28	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P12 —	—	44	34	13 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.1 5引切替	—	43	32	18 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P13 HSを切り替	圓柱形	88	74	44 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.2 5引切替	—	25	21	27 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P14 —	圓柱形	42	31	29 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.3 5引切替	—	30	26	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P15 —	円形	40	40	22 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.4 5引切替	—	38	27	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P16 —	円形	36	33	12 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.5 5引切替	—	68	24	13 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P17 M1:引5引7引5	円形	50	49	21 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.6 5引切替	—	26	23	13 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P18 M1:引5引7引5	円形	44	41	32 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.7 5引切替	—	53	50	17 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P19 —	円形	60	51	33 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.8 5引切替	—	48	44	32 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P20 —	円形	80	51	23 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P6.9 5引切替	—	42	31	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P21 —	円形	42	33	10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.0 5引切替	—	25	21	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P22 —	細孔形	63	56	21 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.1 5引切替	—	73	43	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P23 —	円形	58	57	42 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.2 5引切替	—	47	47	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P24 —	円形	61	59	47 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.3 5引切替	—	23	22	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P25 P26 L9引5引6引3	不規則形	80	63	55 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.4 5引切替	—	31	39	39 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P26 P25 Q9引2	細孔形	97	66	13 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.5 5引切替	—	38	31	28 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P27 M1:引5引6引5	細孔形	48	36	18 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.6 5引切替	—	36	26	15 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P28 M1:引5引5引5	細孔形	65	56	22 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.7 5引切替	—	44	26	9 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P29 —	細孔形	39	31	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.8 5引切替	—	43	41	27 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P30 —	円形	35	33	17 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P7.9 5引切替	—	26	20	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P31 M1:引5引6引5	—	67	—	—	P8.0 濃度計外側付近	—	39	—	10 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	
P32 —	細孔形	80	69	21 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.1 5引切替	—	45	34	15 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P33 —	不規則形	71	58	20 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.2 5引切替	—	49	38	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P34 —	不規形	54	28	10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.3 5引切替	—	29	21	17 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P35 —	圓柱形	34	27	12 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.4 5引切替	—	28	11	10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P36 —	圓柱形	77	49	10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.5 5引切替	—	46	35	10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P37 —	細孔形	58	45	19 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.6 5引切替	—	31	23	23 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P38 —	細孔形	52	43	21 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.7 5引切替	—	45	35	15 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P39 —	細孔形	37	28	10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.8 5引切替	—	23	26	40 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P40 —	円形	28	15 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P8.9 5引切替	—	36	28	25 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	
P41 —	不規形	102	38	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.0 5引切替	—	48	34	12 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P42 —	細孔形	71	57	25 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.1 5引切替	—	63	47	22 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P43 —	細孔形	76	54	17 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.2 5引切替	—	85	53	22 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P44 —	円形	38	37	27 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.3 5引切替	—	46	32	13 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P45 —	細孔形	35	29	15 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.4 5引切替	—	31	24	10 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P46 —	細孔形	40	32	29 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.5 H4:引5引4引5	—	62	—	20 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P47 —	細孔形	46	39	42 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.6 H4:引5引4引5	—	23	23	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P48 —	不規形	62	47	33 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.7 P9.8:引5引5引5	—	50	—	19 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P49 P100を切り替	円形	70	63	13 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.8 H4:引5引5引5	—	—	—	22 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P50 P100を切り替	細孔形	62	56	20 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P9.9 引5引5引5	—	33	26	14 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P51 —	細孔形	43	32	8 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P10.0 P10.1:引5引5引5	—	62	57	29 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P52 P53 HSを切り替	細孔形	35	23	19 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P10.1 F3:引5引5引5	—	43	—	8 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P54 —	不規形	56	48	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P10.2 —	—	52	44	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P55 —	円形	63	34	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P10.3 —	—	17.5	90	24 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—
P56 —	円形	27	27	16 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—	P10.4 —	—	—	—	23 10VR/2.0 10VR/4.0 □-□-□	—

ヒット計測表(3)

測定名	測定部位	測定区	平野部	高脚部	腰	胸	腹部	腰脚部	頭部	手足部	面部	頭部	手足部	腰	胸	腹部	腰脚部	頭部	手足部	面部
P105	頭部	—	—	—	38	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P106	—	—	—	—	55	46	22	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P107	—	—	—	—	31	27	11	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P108	—	—	—	—	29	26	24	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P109	—	—	—	—	46	36	24	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P110	—	—	—	—	58	33	26	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P111	—	—	—	—	26	24	13	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P112	—	—	—	—	35	55	56	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P113	—	—	—	—	69	49	22	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P114	—	—	—	—	45	50	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P115	—	—	—	—	61	57	18	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P116	—	—	—	—	41	32	18	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P117	—	—	—	—	21	14	12	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P118	—	—	—	—	58	57	57	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P119	—	—	—	—	63	59	34	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P120	—	—	—	—	58	54	38	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P121	—	—	—	—	55	49	39	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P122	—	—	—	—	20	18	15	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P123	—	—	—	—	23	20	14	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P124	—	—	—	—	28	16	14	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P125	—	—	—	—	25	21	16	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P126	—	—	—	—	59	51	43	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P127	—	—	—	—	65	61	48	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P128	—	—	—	—	287	77	48	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P129	—	—	—	—	27	25	18	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P130	—	—	—	—	45	39	18	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P131	—	—	—	—	20	25	12	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P132	—	—	—	—	91	61	36	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P133	—	—	—	—	67	58	38	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P134	—	—	—	—	36	24	16	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P135	—	—	—	—	36	24	16	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P136	—	—	—	—	38	16	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P137	—	—	—	—	28	14	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P138	—	—	—	—	40	33	21	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P139	—	—	—	—	44	35	30	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P140	P24.6.9.25	—	—	—	43	38	47	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P141	P24.6.9.25	—	—	—	57	52	19	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P142	—	—	—	—	98	62	38	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P143	—	—	—	—	48	39	27	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P144	—	—	—	—	75	59	48	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P145	—	—	—	—	78	68	36	21	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—
P146	—	—	—	—	69	58	32	20	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—
P147	—	—	—	—	71	54	37	19	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—
P148	—	—	—	—	41	43	30	50	10Y84.2	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—
P149	P24.6.9.25	—	—	—	42	38	28	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P150	P24.6.9.25	—	—	—	44	33	10	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
P151	—	—	—	—	59	48	33	24	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—
P152	—	—	—	—	63	57	47	40	10Y84.3	10Y87.4	□	△	△	—	—	—	—	—	—	—
P153	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ビット計測表(4)

測定部位	測定部位名	測定方法	平面形	実験系	測定系	測定値	備考
P2.0.3	一	角形	38	31	10.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
P2.0.4	測定6.9%延びる	角形	67	-	26.10YR2/2, 10YR7/6 □ -L少含.	P2.21	H5に切られた M1に切られた
P2.0.5	測定6.9%延びる	角形	38	32	13.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.22	-
P2.0.6	測定6.9%延びる	角形	67	57	21.10YR3/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.23	-
P2.0.7	測定6.9%延びる	角形	-	29	13.10YR3/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.24	-
P2.0.8	角形	43	37	35.10YR7/4 □ -L少含.	P2.25	-	
P2.0.9	-	角形	48	42	28.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.26	-
P2.1.0	-	角形	42	36	24.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.27	-
P2.1.1	角形	88	41	29.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.28	-	
P2.1.2	測定6.9%延びる	角形	-	25	13.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.29	-
P2.1.3	P1.50に切られた	角形	-	42	-	P2.30	-
P2.1.4	P1.50に切られた	角形	-	51	51.10YR4/3, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.31	-
P2.1.5	P1.41に切られる	角形	58	56	55.10YR7/4 □ -L少含.	P2.32	-
P2.1.6	P1.41に切られる	角形	96	42	42.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.33	-
P2.1.7	P1.41に切られる	円形	34	33	21.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.34	-
P2.1.8	P1.41に切られる	不規則	118	87	40.10YR3/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.35	H5に切られた M1に切られた
P2.1.9	H5に切られた	不規則	-	-	36.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.36	H5に切られた M1に切られた

H 1 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(外径)	口径(内径)	底径(外径)	底径(内径)	重量(重)	重量等	成形・調整		出土部位
									法	外	
1	土師器	北式碗型杯	(12.3)	(12.4)	高径(厚)	高径(厚)	-	< 2.4 >	-	ヘラケツイ	回転火照
2	土師器	北式碗型杯	(15.7)	(15.2)	-	< 3.4 >	-	ナデ	ヘラケツイ	回転火照	壁上
3	土師器	杯	(2.0)	-	< 7.5 >	-	ヘラケツイ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	回転火照
4	土師器	武藏甌	21.3	10.2	-	< 32.3 >	-	ナデ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	完全火照
5	土師器	甌	(22.0)	-	< 12.0 >	-	ナデ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	完全火照
6	土師器	武藏甌	(24.0)	-	< 3.0 >	-	ナデ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	完全火照

H 2 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(外径)	口径(内径)	底径(外径)	底径(内径)	重量(重)	重量等	成形・調整		備考	出土部位
									法	外		
1	須恵器	杯	(13.0)	(6.8)	高高(厚)	高高(厚)	-	< 2.5 >	-	ヘラケツイ	回転火照	No2
2	須恵器	杯	13.6	6.6	-	-	-	ナデ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	完全火照	ケン
3	須恵器	杯	(14.0)	(6.5)	-	-	-	ナデ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	完全火照	回転火照
4	須恵器	甌	-	-	-	-	-	ナデ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	完全火照	甌上
5	須恵器	甌	(5.7)	6.7	-	-	-	ナデ	ヘラケツイ	ヘラケツイ	完全火照	甌上

H 3 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(外径)	底径(内径)	重量(重)	成形・調整		備考	出土部位
						法	外		
1	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.21	-	45	43.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
2	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.22	-	66	62.10YR4/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
3	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.23	-	54	40.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
4	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.24	-	59	39.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
5	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.25	-	75	41.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
6	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.26	-	66	48.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
7	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.27	-	58	51.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
8	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.28	-	61	69.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
9	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.29	-	47	52.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
10	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.30	-	69	60.26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
11	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.31	-	59	59.26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
12	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.32	-	57	34.44.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
13	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.33	-	51	54.28.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
14	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.34	-	48	43.28.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
15	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.35	-	36	16.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-
16	須恵器	杯	26.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	P2.36	-	58	51.29.10YR2/2, 10YR7/4 □ -L少含.	-	-

H 4 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(径)	法 底径(底)	高 底高(底)	重量 (重)	重量等	内 面	成 形・調 整	外 面	備考	出土層位
1	土師器	北朝型环 盆	12.4 (12.7)	12.9 (12.9)	4.8 <41 <37	— — —	ヨコナード ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸頭 完全尖頭 完全尖頭	No1
2	土師器	环 盆	16 (17.9)	12.4 (16.0)	4.1 <49 <65	— — —	ヨコナード ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸頭 完全尖頭 完全丸頭	No2
3	土師器	环 盆	17 (17.9)	12.4 (16.0)	4.1 <49 <65	— — —	ヨコナード ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸頭 完全尖頭 完全丸頭	No2
4	土師器	盆	—	—	—	—	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	完全丸頭 完全尖頭 完全丸頭	No2
5	土師器	盆	—	—	—	—	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	完全丸頭 完全尖頭 完全丸頭	No2
6	須恵器	环 盆	—	—	—	—	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	完全丸頭 完全尖頭 完全丸頭	No2
7	須恵器	环 盆	—	—	—	—	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	ヨコナード	完全丸頭 完全尖頭 完全丸頭	No2

H 5 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(径)	法 底径(底)	高 底高(底)	重量 (重)	重量等	内 面	成 形・調 整	外 面	備考	出土層位		
1	土師器	高盆	—	17.7	—	2.5	<5.8	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No1	
2	土師器	高 盆	<20.0	>	—	<26.0	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全尖頭 完全尖頭	No1	
3	土師器	高 盆	<20.0	>	—	<20.9	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全尖頭 完全尖頭	No4・II・カマド	
4	土師器	高 盆	—	—	—	—	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全尖頭 完全尖頭	No4・II・カマド	
5	土師器	高 盆	(17.8)	—	—	<6.9	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全北側 完全北側	No2	
6	土師器	高 盆	(21.4)	—	—	<5.3	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No2	
7	須恵器	有合环 盆	10.0	6.7	—	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	No2	
8	須恵器	有合环 盆	(14.1)	(10.4)	3.9	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	No2	
9	須恵器	高 盆	15.0	10.5	12.0	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	No2	
10	石器・石製品	輪物石	10.0	5.8	3.3	<10.18	<10.18	輪物部に残り	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No2	
11	石器・石製品	輪物石	3.4	4.9	3.6	<3.6	<3.6	輪物部に残り	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No2	
12	須恵器	高 盆	<13.9	>	<0.6	>	<0.6	>	<15.3> 開口火鉢	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No5

H 6 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(径)	法 底径(底)	高 底高(底)	重量 (重)	重量等	内 面	成 形・調 整	外 面	備考	出土層位	
1	土師器	北朝型环 盆	(12.4)	(8.8)	2.9	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No2・HT・カマド・I・K	
2	土師器	武藏燒	(13.2)	—	<8.2	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No2・HT・カマド	
3	土師器	武藏燒	(18.4)	—	<5.2	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	I・K	
4	土師器	武藏燒	—	—	3.6	<5.4	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	I・K
5	土師器	武藏燒	—	—	(3.8)	<4.7	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	I・K
6	土師器	武藏燒	—	—	(4.0)	<9.7	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	I・K
7	土師器	武藏燒	—	—	7.3	<3.7	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	I・K
8	土師器	盆	(20.4)	—	<8.9	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全北側 完全北側	No2・HT・カマド・I・K	
9	須恵器	有合环 盆	13.6	6.8	3.8	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	I・K
10	須恵器	环 盆	(14.0)	—	<3.8	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	I・K
11	須恵器	有合环 盆	14.4	6.3	4.4	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	No3
12	須恵器	环 盆	—	(12.0)	<4.3	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	No3
13	須恵器	盆	(7.8)	—	<1.3	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	III・K・I
14	須恵器	高 盆	(28.4)	—	<4.5	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	III・K
15	須恵器	盆	—	—	7.8	<18.2	—	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	ヨクロナデ	完全北側 完全北側	No1

H 7 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	形	注	量		重	成形・調整	外・面	備考	出土場所
				口径(目)	底径(目)					
1	土師器	北朝型壺	10.2 (11.6)	10.1 (6.0)	3.0 —	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	No6
2	土師器	北朝型壺	10.2 (12.2)	10.1 (12.5)	3.7 —	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	H/K
3	土師器	北朝型壺	10.2 (12.6)	10.1 (12.4)	3.9 —	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	H/K
4	土師器	北朝型壺	13.2 (10.8)	13.5 —	4.3 —	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	No7・H/K
5	土師器	北朝型壺	13.2 (15.4)	<5.1> —	<5.1> —	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	No2・3
6	土師器	壺	13.2 (18.2)	<3.6> —	<3.6> —	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	カマド
7	土師器	壺	13.2 (18.6)	<3.6> —	<3.6> —	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	H/K
8	土師器	壺	13.2 (11.4)	<1.6> —	<1.6> —	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実則	P1・H/K
9	土師器	壺	13.2 (9.0)	<2.8> —	<2.8> —	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実則	No1
10	須恵器	壺	13.2 (9.0)	<1.5> —	<1.5> —	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実則	H/K
11	須恵器	壺	13.2 (9.0)	<2.0> —	<2.0> —	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実則	H/K
12	須恵器	壺	13.2 (9.0)	<2.0> —	<2.0> —	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実則	H/K

H 8 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	形	注	量		重	成形・調整	外・面	備考	出土場所
				口径(目)	底径(目)					
1	土師器	壺	—	(8.0)	<2.5>	—	ヘラミガキ・黒色處理	ヘラケズリ	完全実則	H/K
2	土師器	武藏型	(24.2)	—	<5.3>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	H/K
3	土師器	武藏型	—	5.7	<2.9>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	H/K
4	須恵器	壺	(12.2)	(6.1)	4.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実則	H/K
5	須恵器	壺	(14.4)	7.7	3.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実則	P1
6	須恵器	壺	—	(8.2)	<2.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実則	H/K

H 9 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	形	注	量		重	成形・調整	外・面	備考	出土場所
				口径(目)	底径(目)					
1	土師器	壺	(20.4)	(13.1)	<6.9>	—	糊付箋	ヘラケズリ	完全実則	P7
2	土師器	壺	(19.0)	(4.7)	<3.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	1区・ぶり
3	土師器	武藏型	(21.7)	—	(26.9)	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	No1, 1区
4	土師器	武藏型	—	4.3	<1.2>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	No1, 1区
5	土師器	武藏型	—	(5.3)	<8.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	No1, 1区
6	土師器	武藏型	—	—	<1.5>	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実則	No1, 1区
7	土師器	武藏型	(12.5)	(6.1)	3.4	—	ナデ	ナデ	完全実則	No1, 1区
8	須恵器	壺	13.2	8.0	3.7	—	ナデ	ナデ	完全実則	M/S, ぶり
9	須恵器	壺	(14.5)	(16.7)	<4.0>	—	ナデ	ナデ	完全実則	ケノ
10	須恵器	壺	(16.1)	—	<2.5>	—	ナデ	ナデ	完全実則	天井削籠・ヘラケズリ
11	須恵器	壺	(35.2)	—	<8.6>	—	ナデ	ナデ	完全実則	1・M区
12	須恵器	壺	—	—	—	—	ナデ	ナデ	完全実則	1・M区
13	須恵器	壺	—	—	—	—	ナデ	ナデ	完全実則	No1
14	石器・石製品	壺	15.5	5.3	5.0	694.0	延面	—	—	No2

H 10 号住居出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(基)	底径(基)	高さ(厚)	器重(量)	内・面	外・面	備考	出土層位
1	土師器	杯	(12.8)	(6.0)	3.8	—	ヘラミガキ→黒色退色等	ヘラケイズ	IV・V	回転式刷毛
2	土師器	杯	(18.1)	(8.1)	7.2	—	ヘラミガキ→黒色退色等	ヘラケイズ	1・II・K	回転式刷毛
3	土師器	杯	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色退色等	ヘラケイズ	I・K	回転式刷毛
4	土師器	武藏型	(11.2)	—	<3.2>	—	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	回転式刷毛
5	土師器	武藏型	(20.6)	—	<9.3>	—	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	回転式刷毛
6	土師器	武藏型	(21.6)	—	<9.0>	—	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	回転式刷毛
7	土師器	武藏型	—	—	(4.4)	<18.5>	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	回転式刷毛
8	土師器	武藏型	—	—	5.0	5.4	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	完全火照
9	須恵器	杯	(15.6)	(9.2)	4.0	—	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	完全火照、石本
10	須恵器	杯	—	—	6.9	<2.5>	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	完全火照、石本
11	須恵器	杯	—	—	(8.6)	<2.0>	—	ヘラケイズ	ヘラ記号	完全火照
12	須恵器	有台杯	(12.8)	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
13	須恵器	有台杯	(13.6)	—	8.9	3.6	—	ナデ	ナデ	完全火照
14	須恵器	有台杯	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
15	須恵器	杯蓋	—	—	12.8	4.1	—	ナデ	ナデ	完全火照
16	須恵器	杯蓋	(16.0)	(2.8)	2.5	3.7	—	ナデ	ナデ	完全火照
17	須恵器	杯蓋	(16.4)	(2.8)	3.2	—	—	ナデ	ナデ	完全火照
18	須恵器	杯蓋	—	—	(5.4)	<1.4>	—	ナデ	ナデ	完全火照
19	須恵器	蓋	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	完全火照
20	輪文土器	深鉢	<7.3>	<5.0>	<5.0>	<2.2>	<138.3>	ナデ	ナデ	完全火照、縄文
21	石器	石製品・磨・凹石	—	—	1.10	7.2	4.5	167.4	ナデ	完全火照
22	石器	石製品・磨・凹石	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	完全火照

H 12 号住居出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(基)	底径(基)	高さ(厚)	器重(量)	内・面	外・面	備考	出土層位
1	土師器	武藏型	(11.1)	(11.3)	3.6	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
2	須恵器	蓋	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
3	土師器	武藏型	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
4	土師器	武藏型	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
5	土師器	武藏型	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
6	須恵器	杯	(13.6)	(7.0)	3.7	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
7	須恵器	杯	(13.6)	(8.3)	3.4	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
8	須恵器	杯	(14.0)	(8.6)	4.1	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
9	須恵器	杯	(14.4)	(8.1)	3.8	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
10	須恵器	杯	(14.0)	(8.1)	<3.0>	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
11	須恵器	有台杯	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
12	須恵器	有台杯	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照

H 13 号住居出土遺物觀察表(1)

No	器種	器形	口径(基)	底径(基)	高さ(厚)	器重(量)	内・面	外・面	備考	出土層位
1	土師器	杯	—	(19.8)	<3.1>	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
2	土師器	武藏型	(21.2)	—	<7.2>	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
3	土師器	武藏型	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
4	土師器	武藏型	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
5	土師器	武藏型	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
6	須恵器	杯	(13.6)	(6.6)	(3.2)	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
7	須恵器	杯	(13.6)	(7.0)	3.7	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
8	須恵器	杯	(13.6)	(8.3)	3.4	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
9	須恵器	杯	(14.0)	(8.6)	4.1	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
10	須恵器	杯	(14.4)	(8.1)	3.8	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
11	須恵器	有台杯	(14.0)	(8.1)	<3.0>	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照
12	須恵器	有台杯	(14.0)	(8.1)	<3.0>	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全火照

H 13 号住居出土遺物觀察表(2)

No	器種	器形	口径(底) 厚	底径(底) 厚	高さ(厚)	重量 (重)	内面	成形・調整等	外面	備考	出土層位
13	須恵器	有台环	—	(10.2)	<6.1>	—	ナデ	圓輪・ヘラケズリ・付高台	圓輪・ヘラケズリ	II・IVK	
14	須恵器	环	(15.0)	—	<2.4>	—	ナデ	天井部断続ヘラケズリ	圓輪・天井部断続ヘラケズリ	カマド	
15	須恵器	环	(18.0)	—	<2.7>	—	ナデ、火燐	天井部断続ヘラケズリ	圓輪・火燐	P1	
16	須恵器	环	—	—	—	—	ナデ	瓶口・火燐	瓶口・火燐	IIK	
17	石器・石製品	砾石	<9.0>	<5.4>	<3.6>	<218.0>	上部欠損、瓶口4	瓶口・火燐	完全火燐	IIIK	
18	石器・石製品	刀子	<5.2>	<1.1>	<0.3>	<3.5>	瓶口欠損	完全火燐	完全火燐	IIK	

H 14 号住居出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(底) 厚	底径(底) 厚	高さ(厚)	重量 (重)	内面	成形・調整等	外面	備考	出土層位
1	土師器	化粧焼け	(10.8)	(10.8)	<3.2>	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	I.K.	
2	土師器	武藏燒	—	—	<11.0>	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	カマド	
3	須恵器	环	—	—	<10.1>	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全火燐、火燐ノコリ	No2
4	須恵器	有台环	(13.2)	(9.0)	3.4	—	ナデ	圓輪・ヘラケズリ	圓輪・ヘラケズリ	IIIK	
5	須恵器	円筒形	14.8	—	<3.3>	—	ナデ	ナデ、断端透かし7ヶ所	完全火燐	No1	
6	銅器	刀子	<7.3>	<11.2>	<0.3>	<6.4>	海螺大根、一部分木質残存	完全火燐	完全火燐	IIIK	

H 15 号住居出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(底) 厚	底径(底) 厚	高さ(厚)	重量 (重)	内面	成形・調整等	外面	備考	出土層位
1	土師器	壺	(12.5)	—	<5.3>	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	II.K.	
2	土師器	武藏燒	(2.4)	—	(4.0)	<2.2>	—	ナデ	ヘラケズリ	圓輪・火燐	カマド
3	土師器	武藏燒	—	—	—	—	ナデ	ヘラケズリ	圓輪・火燐	I・IIK	
4	土師器	北野燒	—	—	—	—	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全火燐	
5	須恵器	环	(15.4)	—	<2.3>	—	クロロナデ、火燐	クロロナデ	火燐	IVK	
6	須恵器	有台环	(6.2)	—	<3.1>	—	クロロナデ	クロロナデ	火燐	IIK	
7	須恵器	有台环	—	—	<1.8>	—	ナデ	クロロナデ	クロロナデ、高台欠損	I.K.	
8	須恵器	环	—	—	—	—	ナデ	目印	目印	IVK	
9	須恵器	壺	—	—	—	—	ナデ	刻畫?	刻畫?	IIIK	
10	石器・石製品	砾石	8.1	4.2	2.1	<96.3>	上部欠損、瓶口4	完全火燐	完全火燐	No1	
11	石器・石製品	台石	30.5	23.8	6.3	5,000.0	側面1	完全火燐	完全火燐	完全火燐	完全火燐
12	石器・石製品	砾石	5.2	5.4	2.8	22.1	側面に擦り	完全火燐	完全火燐	完全火燐	完全火燐
13	石器・石製品	砾石	5.1	4.6	2.6	80.1	側面2	完全火燐	完全火燐	完全火燐	完全火燐
14	石器・石製品	砾石	<6.8>	<4.9>	<3.0>	<124.9>	側面3	完全火燐	完全火燐	完全火燐	完全火燐

H 16 号住居出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(底) 厚	底径(底) 厚	高さ(厚)	重量 (重)	内面	成形・調整等	外面	備考	出土層位
1	土師器	武藏燒	—	—	5.4	<9.6>	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	カマド	
2	須恵器	环	—	—	(7.6)	<0.8>	—	口クロナデ	ヘラケズリ	窓上	

組立柱建物出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(Φ)		底深(Φ)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
			口径(Φ)	底径(Φ)							
E4-1	須恵器	环	(12.6)	(6.6)	—	3.5	—	口クロナデ、火槽	回転ヘラケズリ、火槽	回転ヘラケズリ	P7
E7-1	土器	扁平	—	—	<4.9>	—	—	口ミガキ	ヘラミガキ	回転ヘラケズリ	P1
E9-1	須恵器	扁平	—	(5.2)	<4.3>	—	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	P3

D 3号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(Φ)		底深(Φ)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
			口径(Φ)	底径(Φ)							
1	須恵器	环	(12.8)	(8.1)	—	3.8	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	W区
2	須恵器	环	(12.8)	(8.1)	—	3.8	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	E-W区
3	須恵器	环	13.5	7.1	—	3.7	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	E区
4	須恵器	环	13.7	6.9	—	3.8	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	W区
5	須恵器	环	14.2	8.4	—	4.1	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	E区
6	須恵器	有柄环	(13.6)	(10.2)	—	3.9	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	E区
7	須恵器	有柄环	(14.2)	(10.4)	—	3.8	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	W区
8	須恵器	有柄环	15.5	10.3	—	6.4	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	E区
9	須恵器	有柄环	(15.8)	—	<6.1>	—	—	口クロナデ	ロクロロデ	ロクロロデ	W区
10	須恵器	有柄环	—	(9.4)	<6.4>	—	—	口クロナデ	ヘラミアリ	ヘラミアリ	E区
11	須恵器	环	—	—	<1.8>	—	—	口クロナデ	天井付輪軸ヘラカズリ	天井付輪軸ヘラカズリ	E区
12	須恵器	环器	—	—	—	<2.8>	—	口クロナデ	天井付輪軸ヘラカズリ	天井付輪軸ヘラカズリ	E区
13	須恵器	鑊	—	22.2	—	<26.8>	—	当輪、ナデ	平手印目	平手印目	W区
14	須恵器	鑊	—	10.8	<6.4>	—	—	口クロナデ	ロクロロデ	ロクロロデ	W区
15	須恵器	鑊	—	—	<8.0>	—	—	当輪、ナデ	平手印目	平手印目	E区
16	須恵器	鑊	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	E区

M 1号溝址出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(Φ)		底径(Φ)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
			口径(Φ)	底径(Φ)							
1	須恵器	环	—	—	(5.9)	<1.9>	—	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ
2	須恵器	有柄环	—	—	(5.8)	<1.3>	—	口クロナデ	火槽	火槽	回転ヘラケズリ
3	須恵器	有柄环	—	—	(9.0)	<1.5>	—	口クロナデ	ヘラミアリ	ヘラミアリ	回転ヘラケズリ
4	白器	有柄环	2.8	1.7	—	0.35	1.5	—	—	—	完全剥離層

遺構外出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(Φ)		底径(Φ)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
			口径(Φ)	底径(Φ)							
1	須恵器	平皿?	(11.8)	—	<6.3>	—	—	口クロナデ	ロクロロデ	ロクロロデ	表形



H 1号住居址



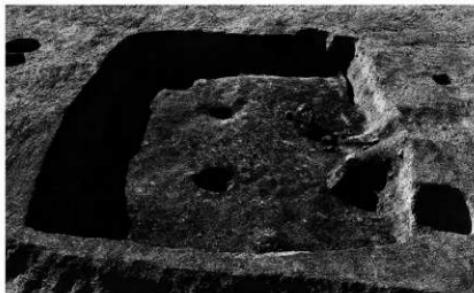
H 2号住居址



H 3号住居址



H 4号住居址



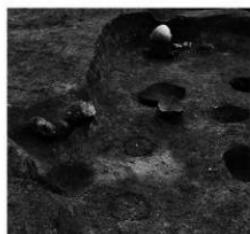
H 5号住居址



H 5号住居址カマド



H 6号住居址



H 6号住居址カマド



H 7号住居址カマド



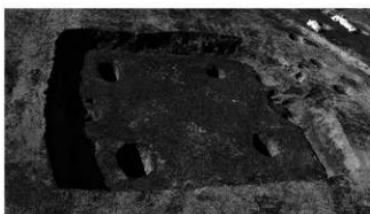
H 7号住居址



H 8号住居址



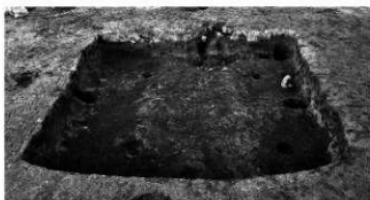
H 9号住居址



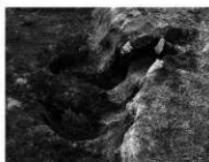
H 10号住居址



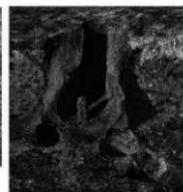
H 12号住居址



H 13号住居址



H 13号住居址カマド



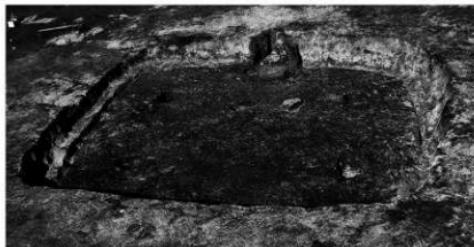
H 12号住居址カマド



H 14号住居址完掘↑

遺物出土状況→





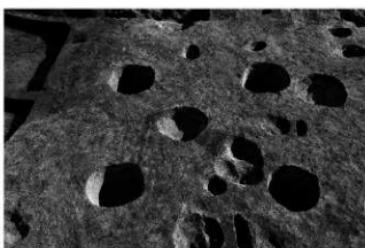
H 15号住居址



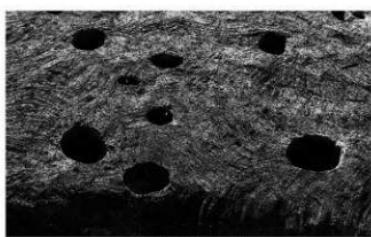
H 15号住居址カマド



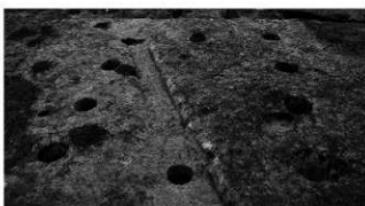
H 16号住居址



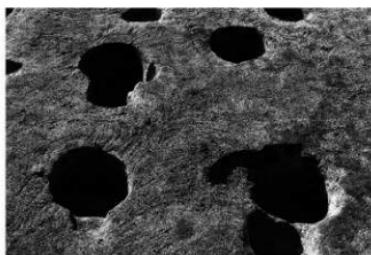
F 1号掘立柱建物址



F 2号掘立柱建物址



F 3号掘立柱建物址



F 4号掘立柱建物址



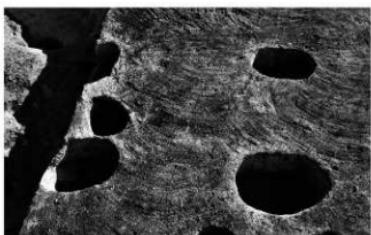
F 5号掘立柱建物址



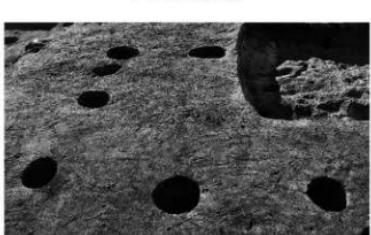
F 6号掘立柱建物址



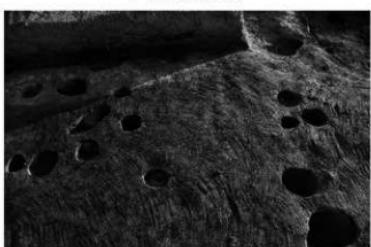
F 7号掘立柱建物址



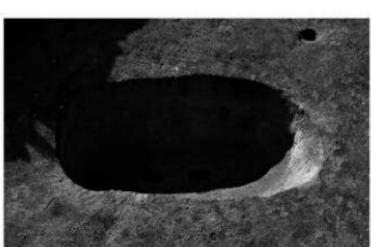
F 8号掘立柱建物址



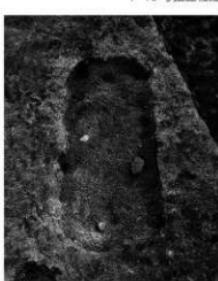
F 9号掘立柱建物址



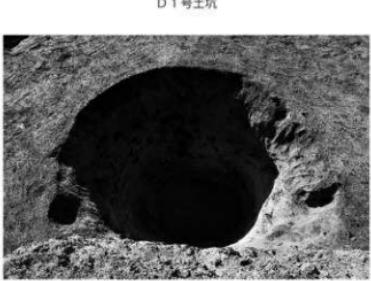
F 10号掘立柱建物址



D 1号土坑



D 2号土坑



D 3号土坑



H1号住居址出土遺物



H2号住居址出土遺物



H3号住居址出土遺物



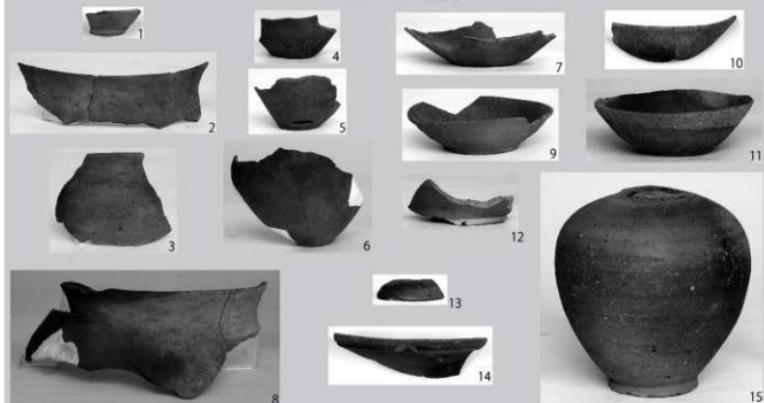
H4号住居址出土遺物



H5号住居址出土遺物(1)



H5号住居址出土遺物(2)



H6号住居址出土遺物



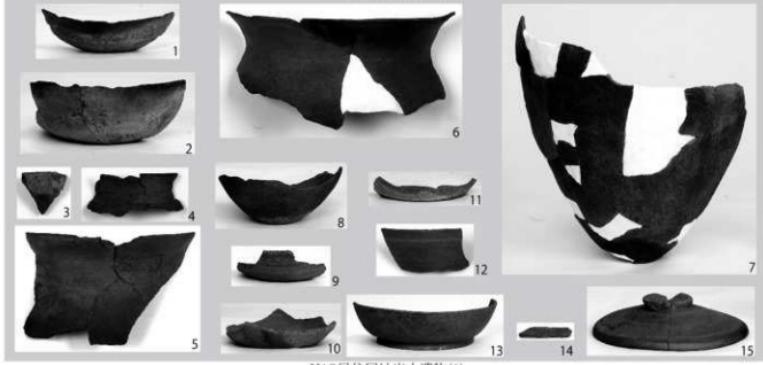
H7号住居址出土遺物



H8号住居址出土遺物



H9号住居址出土遺物



H10号住居址出土遺物(1)



H10号住居址出土遺物(2)



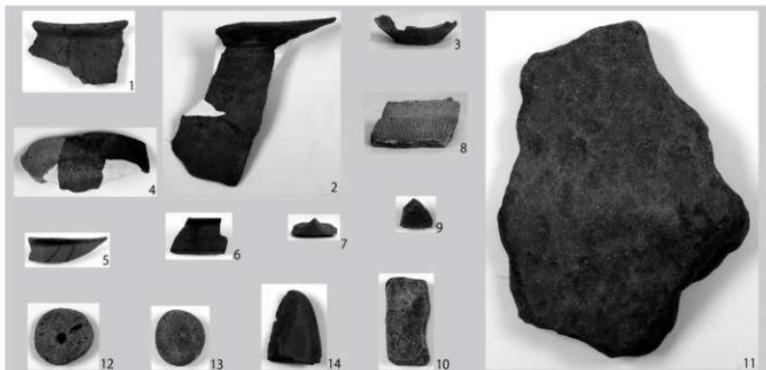
H12号住居址出土遺物



H13号住居址出土遺物



H14号住居址出土遺物



H15号住居址出土遺物



H16号住居址出土遺物



D3号土坑出土遺物



M1号溝址出土遺物



4(原寸)



遺構外出土遺物



D 3号土坑出土獸骨

ふりがな	まえだいせきぐん まえだいせき ろく						
書名	前田遺跡群 前田遺跡 VI						
副書名							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 264 集						
編著者名	小林眞寿						
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課						
所在地	長野県佐久市中込 2913 TEL 0267-63-5321 FAX 0267-63-5322						
発行年月日	令和 2 年 (2020) 3 月						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
まえだいせきろく さくしょたいあざまだ 佐久市小田井字前田 329-1, 332, 333-1, 343-5	佐久市小田井字前田	20217	2	36° 18'28" 138° 28'58"	平成 30 年 11 月 15 日 ~ 12 月 11 日	1,063.67m ²	工場新築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
前田遺跡VI	集落址	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居址 -16 棟 掘立柱建物址 -10 棟 土坑 -3 基 溝址 -1 条 ピット -236 基	土師器 須恵器 石器・石製品 鉄器 獸骨	奈良時代の張り出し部を有する特異な形態の竪穴住居址から、脚部分は欠損するものの、礎面がほぼ完形の円面鏡が 1 件出土した。		
要約	古墳時代後期（7世紀）に成立した計画集落の調査。						

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 264 集

前田遺跡群 前田遺跡VI

2020 年 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒 385-0051 長野県佐久市中込 2913

TEL 0267-63-5321

印刷所 キクハライニング有限会社
